高尾新開之子美我家料

二

勲記記二

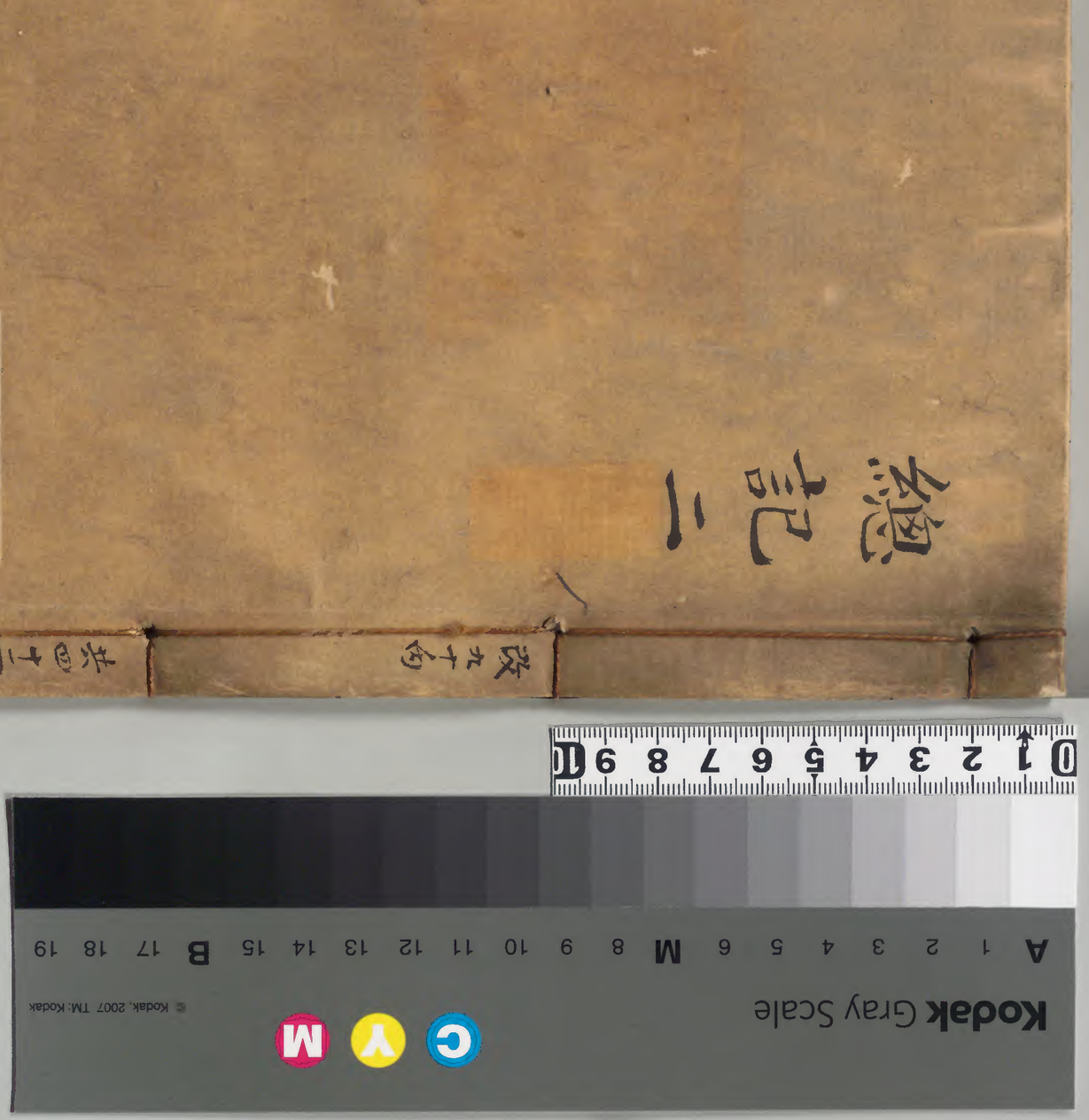
改ル丁内

共四十二

内閣文庫

番號	和 34594
冊數	90（ 3）
函號	157 401

庫	文	閣
内		
和		
書		
類	號	冊
	三四五九	の
五七函		
三架		



国立公文書館
National Archives of Japan

上野領接武蔵
三河下野領接
越後領接領中
舟渡
舟渡
舟渡

寛政六寅ノ
同十年年迄
代官所並郡
奇特者行状書

水動家

国立公文書館
National Archives of Japan

相續出金之儀願奉
仕候義左ニ申上候

一金弐百両

右又市儀親源左衛門
弐百八拾石余所持数多
もの之内尾濱村ニ
而百八拾石余小村

上列新田組
尾濱村惣代
又市

年々例幣使
御下向宿ニ
服仕還人馬
ニ而差支申
ニ市之場所
ニ而年々同
困窮ニ而小
追々減石ニ
先年ニ引続

格段ニ百姓御救度之旨ニ而来午迄又ハ
利分ニ而内除金弐百両ニ而ハ書ニ而通用寄渡ニ而ハ
代前村方相談ニ而ハ
渡候ニ而ハ納切ニ而ハ
今年ニ村内格困窮ニ者ニ而ハ別渡ニ而ハ
御来不渡様仕度旨ニ而ハ村内ニ而ハ
乱ニ而ハ又ハ ニ而ハ相違ニ而ハ
渡水難大変ニ而ハ前ニ村内難儀ニ者ニ而ハ
今百両ニ而ハ御施
ニ村方一統ニ而ハ
ニ而ハ ニ而ハ
繕ニ渡ニ而ハ
元ニ代官ニ而ハ相
利金元ニ ニ而ハ

業ニ而外稼方ニ出稼ニ参リ候ニ付何ニ通出金中ニ而旦右之
儀ニ付元ニ而宜村役ニ而勤ニ者ニ而中ニ右ニ村
困窮ニ而ハ御ニ金ニ相預ケニ而ハ奇特ニ候ニ付ニ村
役人ニ而ニ者ニ而ニ候ニ付ニ而ニ右ニ褒美ニ被
下ニ而ニ候ニ而ニ右ニ村ニ而ニ者ニ而ニ御ニ
ニ而ニ候ニ而ニ

寅正月

同六寅年正月廿六日松平伊豆守殿ニ

萱谷泳之助元代官所
綾渡岡安那ニ而中條村百姓
柳生主膳
久世丹後守
佐橋長門守
佐久間甚八
大久保内膳
肥田十郎兵衛
出勤ニ而

寅正月廿七日

萱谷泳之助元代官所綾渡岡安那ニ而中條

村民百姓之次第候斉特ニ取斗ハ無之云
已来右村ハ多貢納方捗ニ光照之百姓安候
依之第中之ニ者永光照之義ニ而中上ニ
右之通村庄屋三第次候村入用諸勤定教等ニ
滞者之ニ云ニ子年右村方ハ年貢不納ニ光照
芸州浅野家元和代領
備後国安那郡
東中條村
百姓
七次第

小第及困窮之地ニ村方強之基ニも不承候ニ
有ニ云ニ三月ニ右吟味ニ光照り三第次候ニ
陣屋元ニ呼出相庄屋仲裏候ニ病気ニ而
出ニ難ニ成ニ候ニ有ニ之ニ光照ハ下ニ付
りの人抔お礼ニ之ニ右之次第候ニ百姓ニ而實
ニ成者ニ有ニ之ニ第ニ村ニ而礼請ニ候ニ而ハ少ニ之
三第次吟味お濃ニ之ニ諸事引請ニ光照ハ之ニ付

て中村百姓御帳面渡申候処ニ去ル申年貢自
然ニ少々ツゝ初納皆済仕小前収納ニ
差支候ニ付御百姓共を吏ニ而呼寄
去ル申年貢年内皆済仕候ニ付右村方ニ而
ハ御百姓共を吏ニ而呼寄候ニ付代官渡
置候ニ付御百姓共ハ年内皆済仕候ニ付
御褒美ニ米弐俵ツゝ去ル酉年ニ而
ハ年内皆済仕候ニ付御褒美ニ金弐両
ツゝ

元井宿ニ而ハ役人を励候ニ付村役人を励候ニ付
候ニ付御褒美ニ金弐両ツゝ去ル酉年ニ
中立ニ而ハ役人ニ元締吉次郎ニ
小前ニ而ハ百姓共ニ御褒美ニ金弐両ツゝ
早川八郎左衛門代官所ニ而ハ中川上郡中野村ニ
同年ニ組頭ニ而ハ百姓代村方ニ而ハ元締ニ去ル申年貢
上納方ニ而ハ百姓共ニ御褒美ニ金弐両ツゝ

同六寅年六月七日松平伊豆守殿へ

小右大助中ゟ
幸手宿名主
書面御差出候ニ付中上ル書付

柳生之膳所
久世丹波守
板倉肥前守
佐橋長門守

江戸ゟ御沢
小右大助支配所
日光道中幸手宿
名主同断

右之通御座候尓来年宿々ニ而分ケ兎角
支配方中渡ニ而又実ニ難渋ニ
まて宿々ニ世話ニ
宿方共助ケ村々ニ而候ハヽ
芽出度、尓来方中合別ニ相励宿村とも実ニ
世話ニ荒地起返ニ
窮々ニ而ハ
ニ候格別ニ相励候ハヽ
地起返ニ
連中ニ而同人ニ
外々ニ而ハ
御免ニ

仕度旨別紙ニ而大助中ニ而評決仕候処
達而申聞ニ丹波当春支配向已村ニ而初而お乳及見
候処宿方先帰荒地起返其国窮ニ而のとも
手当向除地等話所年月実意と世話仕候ニ付
大助中ニ而相遣し候ニ付而ハ年ニ而
受候拾枚之内ニ而今般七百枚献納苗字帯刀
永ニ帯刀ニ其身一代御免

右之通ニ而庄屋大助先ニ而書付相添奉伺候以上

寅八月

但大助支配所名主所ニ而ハ
村ニ而人数ニ而ハ
日光道中粕壁宿先祖以来
恩賜村名ニ而ハ
世話仕候ニ付
御免ニ

国立公文書館
National Archives of Japan

日光道中
幸手宿文右衛門

小右大助

私支配所
日光道中幸手宿
名主同断
右ニ而帰役
文右衛門

右ニ付御平生格別ニ御精ニ而御勤ニ付日光

要列左通中宿助郷村々困窮之上一方ならず荒
地起返し方々ニ而私ニ支配所等ニ
御座候ニ付ニ而ハ村々前右ニ課村々ニ而ハ
ゆゑ〳〵ニ而書文ニ而ハ御役相勤候ニ付ニ而ハ
宿方永續ニ而ハ御座候ニ付ニ而ハ世話仕同人ニ而ハ宿内之
外宿々ニ而ハ近隣小前ニ而ハ外所ニ而ハ宿方ニ而ハ中助
成金ニ而ハ集利信貸附ニ而ハ相預ニ而ハ助成金ニ
ハ
ニ而ハ宿々ニ而ハ一同ニ而ハ親助成金ニ而ハ来住ニ而ハ同宿ニ而ハ
前々ニ而ハ水ニ而ハ砂入荒地ニ而ハ勝ニ而ハ有之ニ而ハ起返ニ而ハ
右ニ而ハ免除ニ而ハ格別人手ニ而ハ多ニ而ハ御座ニ而ハ
返方ニ而ハ面ニ而ハ格別ニ而ハ之ニ而ハ宿内ニ而ハ元宿ニ而ハ
ニ而ハ者ニ而ハ之ニ而ハ利解中ニ而ハ勿ニ而ハ
ニ而ハ中小前ニ而ハ者ニ而ハ之ニ而ハ利解中ニ而ハ勿ニ而ハ
子年ニ而ハ別格六ヶ所ニ而ハ歩金ニ而ハ余ニ而ハ起返ニ而ハ同年ニ而ハ
仕ニ而ハ中上ニ而ハ之ニ而ハ年ニ而ハ御座ニ而ハ御指

麁ケ川頂田方ニ麦作仕業稼不仕者共ハ勿論
小有之ニ而も麦作不仕別ニ仕付申ニ而
者毛又云ニ子年迄村ニ而右文言ニ拘ニ
合ニ而ハ不申候ニ而ハ御仕法小前ニ
利害ニ而ハ云ニ子年ニ同宿ニ勿論隣ニ而野
村ニ而勤候ニ而ハ右文言ニ別ニ而ハ又ハ余麦作
仕付仕ニ而ハ隣郷出稼神扇村百姓ニ而勤田
反別七町歩程私ニ而ハ七反歩余ハ麦業
稼不仕者ハ麦作試仕付候ニ而ハ
村方勝手ニ而ハ又中勤候ニ而ハ
中ニ而ハ云ニ而ハ云ニ子年ニ而ハ
者ニ而ハ村方ニ而ハ余程有之ニ而ハ
稼麦代ハ洋備ニ而ハ右文言ニ而ハ
麁成ニ而ハ中候ニ而ハ水損

村〻ヨリ食糧麦ヲ〻シ前後相続ノ途及ヒ
ヨ宿ニ傚ヒ妖場農業ノ外仕事ニ助成モ有
ル高人ヲ選ミ頭取ヲ〻ヒ精有ル者ヲ撰ミ其年
傚ヒ視現堂川堀ヲ開キ其収納ヲ以テ農仕ル為冥加
前書ニ会議百姓共出ル撰村ヨリ食糧麦代ヲ
高ヲ利ヲ以テ貸附返済ニ成ル私設ヲ以テ撰ル
撰村方強傚不及撰ル者ハ仕度有ル者ヲ撰ミ

出届申上右ニ会ヲ以テ撰ル撰村ヨリ食糧麦当相
渡ス分済借ニ傚不申上候潤人モ出ニ付お渡ス外
先年ノ視現堂川お水ニ節ヲ文盛ノ年ヲ以テ
格別ノお救ヲ以テ仕教度ヲ以テ旧傚ニ依テ夜中ヲモ
附通度ニ付大ノ字ヲ以テ防留傚モ無度有ニ右
川筋出置後先場所ヲ以テ節ヲ通仁茂宿用
成元宜キ事ノ右申勤出会ヲ以テ自置後仕傚モ有

年〻七月十二月宿内多窮〻りの百姓共秋収納〻
仕宿内為取續夷氏お續〻名主集メ去ル未年今六拾両
前〻〻完雑穀元作貸附相残ル外私又配
仰宗右通役訴ニ先出
享〻世話仕宿方治り方も宜敷宜當
趣百姓ゟ違背お取相勤夫喜悦右ニ付又為出
精〻觀音寺書ニ添差出候処荒増左ニ申上ル

右宿小前ニ指武人ゟり連下書付之中ニ申上ル通ニ
文化酉ゟ午迄七年之間相勤及老年ニ
写退役致度旨ヲ年以前ゟ中出候ニ付退役
お勧ル者ニ付庄屋ゟ名主方ニ而又々申上候通
為精〻名主役相勤候ニ付格別之方助郷和融〻名主方
お精お勧ル者ニ付庄屋ゟ名主方ニ而又々申上候通
右宿小前ニ指武人ゟり連下書付之中ニ申上ル通ニ
文化酉ゟ午迄七年之間相勤及老年ニ
写退役致度旨ヲ年以前ゟ中出候ニ付退役

所ニ於テ為メ金弐百両余助成金ヲ募集メ相納
ムル外右組合宿々ニテモ追々ニ動日集メ月集メ
等世話仕助成金ヲ募ル外水山等ニ度々
支食ヲ施別テ浅間山焼ル節ハ元恒ヲ者
弐十壱人ニ中動正月ヨリ三月迄施行仕三月より
七月迄右宿方々福寺焼団ヲ繕ヲ以日数百
二十日程ニ百貧窮ノ者ヲ救助仕ヲ渡ス
年々大水ニ而田畑ヲ未穀ヲ流失ル
動仕ヲ加穀ヲ以中動六月ヨリ七月ニ米穀安売
仕候ニ右宿ヲ経動モ不為仕且檀現堂川水防ヲ
自普請ヲ金ヲ以ヲ相仕ヲ為ヲ精ヲ限ヲ出勤ヲ而
ヲ以モ無ニ仕報ヲ有ル
ル百一同中ニ
右ヲ通指別実意ヲ尽ヲ

此褒賞ニ浴シ候ハヽ弥教育厚肩仕ヲ以
荒地モ
起返シ年貢モ上納仕ル
ベキ筈ニ相勤ム
ル者ニ候間小前ヲ
モ師匠仕ラセ生計ニ
私ヲ以テ
別自分金ヲ以テモ
ヲ始メ世話仕骨折相勤ル者ヘ
此度ノ
賞典ノ上ヘ村々ニ
勧メ
ル為ニモ此度ノ
ヲ永ク
相遺シ此褒賞ニ
預カリ候ハヽ苗字帯刀
御免ヲ
修行ノ
年賀肝煎役ニ
仰付ラレ
候節ハ
頼ノ
方ヲ
右宿方ヲ
不及申私
支配所ヲ
ヲ宿
助郷村々
通モ
世話為仕
出水ヲ
節ハ
水防ヲ
外ニ
名代ヲ
以テ
一同申
勤為
差出ル
ベク
旦
那
寺
ヘ
頼ノ
次第

同六寅年八月九日松平伊豆守殿より

大島源右衛門元仕代官所
奥列村々小児養育料上ヶ令之候付御書付

書面之通初ヶ上ヶ令候ニ付其元ニ而も御心得
其筋江御届可被成候
寅八月廿八日

柳生主膳正

大島源右衛門元仕代官所奥列村々小児養育料上ヶ令之候付御書付

村々百姓共ニ同同郡村方小児養育料上ヶ令之

後添右之通り中立之外、元祖之親元ニ申上ル

一 金ニ百弐拾文ニ

壮沢

三拾文

弐拾文

奥云橋家組
久ゝ渕村
治郎右衛門

田ゝ網村
武次右衛門

未濱村
次郎兵衛

拾文ニ宛

川舟村
徳右衛門

下川目村
与六

小渕村
久八

川舟村
留右衛門

上川目村
友ニ郎

小目村
与ニ郎

打木村
安右衛門

拾壱号

松ケ峯新田 ― 檜之恵
同新田 ― 伊八
大ケ村 ― 十七郎
山田村 ― 二郎右衛
小渕村 ― 孝右衛
同村 ― 久兵衛
同村 ― 吉郎右衛

大壱号

上ノ峯村 ― 源次郎
同村 ― 梅七
下ノ峯村 ― 宇右衛
下小溝村 ― 武兵衛
下流尻川村 ― 清次郎
仲渕村 ― 与右衛
同断伝兵衛 ― 仲右衛

弐拾壱完

拾壱完

同村 ― 伴七

並木町村 ― 吉郎次

横木村 ― 熱鳥

並木町村 ― 冨次郎

敵忠村 ― 次郎兵衛

宇平村 ― 阿部津鳥

敵忠村 ― 与三郎

壱完

同村 ― 長七

同村 ― 与三郎

同村 ― 幸助

八丁目村 ― 権右衛門

同村 ― 源治

庄坂村 ― 源鳥

同出仕遠距

拾五宛

右之内拾村〻之儀年来多除荒地多分有之
ゆゑ変国風之儀出来小児を引之仕癖有之一
旅人吹之荒地荒返し方〻手限も出来之分
去ル酉年源右衛門中之多〻此年貢米〻百分一

町小路村
同村 弥次兵衛
同村 茂左衛
同村 一蔵左衛

宛村〻他徳〻内分出来中分限 公儀去ル
年以来十ヶ年賦〻同右出来高〻二分一宛下
穀等被下積り何歳〻分其外皆近国出村〻参
物のより上ヶ合作貸附ニ而農業利金ニ
以返〻養育料ニ而渡次第より出生人も相増候
年来ニ而養ひ村〻出国窮之もの多〻養育料ニ
足兼候限及取右之指人〻りのた書面〻合子

上ケ金ニ而養育料ニ被下候ニ付、右之
成ル程仕度候得共、右ニ付而ハ
当ル相応ノ養父母ニ而実貞ニ者共ニ而右躰ニ
候者ハ仕度候得共、不取敢
候ニ付而ハ右之一躰志モ有之候ニ付
相応ニ御座候ニ付、重テ程仕度候
立候様ニ元服ノ節又々願上候
方ニ而ハ養育料ニ被下候ニ付、右之
児ニ育ル方ニ而ハ
多分ニ御座候ニ付、
江戸ニ而ハ養育料ニ被下候ニ付、
御当地ニ而ハ養育仕候ニ而ハ
御当地ニ而ハ養育仕候ニ而ハ
もつて右躰ニ
江戸ニ而弐拾人扶持上ケ金ニ

差加置利金之分為養育料被下置可然存候
右ニ付當書面拾人之者共御褒美之儀先調出役
書面之内久之浜村治郎右衛門田之網村武次右衛門
末続村次郎左衛門荒川村徳左衛門小浜村久右衛門儀
去ル亥年も為苦育料上ケ金仕候節為御褒
美壱人ニ銀五枚宛被下置候御沙汰も御座候得共此度別段
御褒美被下置候ニ不及一通り差置可被仰付お残之拾

五人之者共此度始而上ケ金仕候儀ニ付御沙汰も有之是又
先頃出役又去ル子年為苦育料同断差出候節
弘村之百姓共武拾人江為金武百武拾両余上ケ金仕候
節為御褒美壱人ニ銀武枚宛被下置候右ハ年
始之儀ニ而其節ゟ中立候者共又別段之事ニ付
此度之儀共節書ニ拾五人之者共江壱人銀壱枚
宛被下置候方ニ成一同之御沙汰被下候様之趣御請申上

寅二月

同六寅年六月六日戸田宗右衛門

東海道戸塚宿参将者ら後ニ分お伺ひ書付

書面伺ふ通ニ御座候哉以上

寅六月十日

奏者番
根岸肥前守

大久保加賀守
東海道戸塚宿
石川源七

七

右女人ニ而農業ニ
一年日実稼等精ニ
論之外宿内極貧ニ
明和巳亥年同七亥年
及困窮ニ付右女人
小金百弐拾両弐貫文
宿内一同相
仁右衛

宛高二月中宿内家数百八拾八軒焼失ニ付
元相應ニ取續候ニ付為其別紙
食料之外不足金九拾両添七仁右衛門女人ニ合
借ニ為取替一同別紙之通ニ而
役金ハ先宿方預ケ用之節
支払ハ先年割賦ニ
又相応ニ取續中之内

国立公文書館
National Archives of Japan

此段矣条下重而在仕度旨次右渡中ゟ評被
仕候文右中ゟ之次第参特ゝ筋ニも有ゝ牡ん渡而
ゟ為ニも此度ニ而ハ書面之人ゝゟ之御褒美被
二枚完ゟ下置方ニ而ハ不宜候ゝ事ニ候ゝ
以上

寅六月

同六寅年八月廿六日松平伊豆守殿ゟ

浅間表江帰ル代官所
武蔵下総国村〻ゟ書物着ゟ依之分相須ル書分

書面何〻通着届候
拾壱人ゟ根武牧宛
分ゟ根ゟ牧宿役人納武江ゟ後拾貫文
寅十月二日

柳生主膳正
同宮諸養
伯父同甚八
大久保内膳
肥田十郎兵衛

浅間表江帰ル代官所武蔵下総国村〻ゟ去秋中出

水ニ細胞人ヲ支食為ス者ヲ謂フ

小分売ニ際シ中立ヲ為シ取調ヲ行フ者

一　金六百二拾弐銭壱分

内訳

金六拾銭　　武蔵国足立郡蕨宿　年寄　半内

金六拾銭　　同宿　年寄　玄蔵

金拾銭　　同国大里郡甲山村　名主　伴七

金拾銭　　下総国葛飾郡二俣領村　百姓　弥八

金拾銭　　同村　百姓　三郎兵衛

金二拾銭　　同国同郡立野村　百姓　又右衛門

金拾銭

金弐拾文

金六拾文

金弐拾文

同國同郡西金取井村
名主 大帝鑑

同國同郡松戸宿
年寄 左兵衛
流山村
百姓 紋次郎
由右衛門

武蔵國足立郡南村
名主 治兵衛

小次金二百六拾文

覚
一水抜村く加人夫食を為うて相違金中分水抜
村くゟ貸渡為実ゝ年延ゝ年納之節書く者ゝ
お渡し中様りう変為冥加上ケ金ニ而ゝ渡申候

金六拾文

覚
一右相違金不中分水抜村く者ゝ夫食を為うく
其お直ゝ金ゟ上ケ金ニ仕渡候中立候節及沙書面く
金ゟ為冥加上ケ金ニ而ゝ一度宛中立候

武蔵國足立郡東南村
百姓 源次郎

金弐拾文

金二拾文

金弐拾弐文弐分

小式金二分

金弐拾弐文弐分

同国同郡楠川宿
名主 甚右衛門

同国同郡海藻宿
百姓 仙右衛門

同国同郡楠川宿
百姓 次郎兵衛

同宿
百姓 清右衛門

金弐拾文

金拾八文

金弐拾文

金八文

同宿
百姓 伊兵衛

同宿
百姓 友江郎

同宿
百姓 久兵衛
外江人

同国横見郡流川村
名主 儀兵衛

金拾八両弐分

金弐拾三両二分

小汉金弐百拾七両弐分

右ハ武蔵下総両村ゟ利根川江戸川荒川附村ゟ去
巳ゟ水挽村ゟ飢人夫食為ニ高相遣金中分水挽
村ゟ貸渡高実ゟ年延ニ而元ニ而書取金
いたし候者ニ而ハ無之候ニ付お渡ゟ

同国同郡浦安宿
役人網

同国豊立郡鋼川宿
役人網

秋中ゟ水ゟ川ゟ海水入込ニ而悪敷ニ付押切畑
八不及申ニ而ハ無之候ニ付夫食種籾ニ而ハ無之
流失いたし候ニ付当巳ゟ春ニ而ハ無之候ニ付
陽不ゟ為見分ニ村役人ニ而ハ無之候ニ付
救日水湧候ニ而ハ無之候ニ付夫食ニ而ハ無之
ゟ候ニ川附村ゟ為ニ而ハ無之候ニ付
稗代ニ而ハ無之候ニ付ハ無之候ニ付

海落組相伺ニ付勤番ニ支配市内ニ而相廻ル者
どもゟ利解申ニ付今申渡ス付而ハ御上分限ニ
応シ一金子差出ス付右御運金ニ而ハ追々ニ
お渡ニ相成候ニ付而ハ追而名前中ニ而ハ変動ニ
而拾人ニ一者ニ御ニ者ニ一ケ金ニ而ハ及
為冥加上ケ金ニ一度ニ中ニ立ニ付年季中
名ニ貸附ニ而右利金ニ而ハ小児養育料荒地ニ而
施行ニ用ニ一百姓ニ一ニ而ハ市中ニ仕度旨ニ市村ニ而
御ニ一ニ実ニ一ニ而ハ不申付ニ付右拾ニ人ニ一者ニ
食為手当ニ一ニ而ハ一金子ニ一金ニ仕度ニ中ニ立ニ候
及取書ニ而ニ一金子為冥加上ケ金ニ仕度旨ニ而
尚又一同貸附金ニ仕差出ニ一ニ而ハ取書ニ一通ニ而ハ
此節ニ一ニ而ハ組支配市村ニ一ニ而ハ御届人ニ立ニ
ニ一ニ而ハ一ニ而ハ一ニ而ハ一ニ而ハ一ニ而ハ

当る第一亜英於而相互会兄弟之礼
かも仕度候に帰お伺申候ハ、御中ハ、ハ、様ニ
存候迄之事ニ而
存ま満乃ち参上ケ会ニ而
そこ上存ニ会子上ケ会ニ而
ま満ニて御泊ニ御上ケ会ニ而
一同参特ニ像ニ而花ニ而
画拾弐人ニ者ニ而ハ、慶英ニ人ニ報式枚完ニ而

亜ニ之外助合会兄ニ而
も一回お会い申ニ多ニ而
同参特ニ候ニ付存ニ而
申報ニ候ニ申候ニ而

安八月

△

△

本文助合会兄ニ而
ニ候ニ宿候人ニ中動ニ

揖川宿基右衛門
揖川宿基右衛門
百姓惣兵衛
お湊ニ候一

国立公文書館
National Archives of Japan

楠川宿と方と拾弐人時渠宿と方と弐拾弐人ヶ条出張
小荷宿役人共お納め一日つゝ南り之儀夜を枚宛出張共并
ゆく様ケ中上荷馬右之小荷百駄人数多ニ而差出候儀共
下迄出張と溜く別紙も仕候と有役人納二日つゝ引と之双方共
込ニ而日拾貫文ニ而御請仕候而評定仕置候ニ付御請書

上野國甘樂郡小平村永倫宣小前之者共
一致い為ニ罷越不埒之奇物ニ取斗仕候趣
相聞候ニ付慶応元年乙丑九月廿五日
ニ右出勤之組頭田口文蔵中立ニ付急調
ゆゑ親方ニ申上ル

吉川栄蔵
辺見和三郎 支配所

上列甘樂郡小平村
元名主 彰蔵

同時名主 長吉

年寄 趙云清
外拾二人

百姓代 茂平次
外二人

右小平村ニ係村高百拾八石余山中谷間神流川

附ニ而茂〻より度〻川欠山崩水有〻多〻〻
荒地出来仕候而海年来〻候ニ而地所宇ホも入
狩人小前持分検地帳ニ而四歩ニも弁合不仕候
貢納方甚不同ニ而お〻ニ地股ホ仕候ニ付
前ニ而より検地帳ニ引合不申候而ハ不相元
名主新荒始村役人共ニ而も地不入遠境目ホ
年来お遠〻ニ而相股ニ付候而ハお互ニ損亡有〻
ゆ〻た事海ホと及百姓村役人共ニ而
〻上天明二卯年ニより御検地及後年ニ而も雲泥
〻前ニ而ハ御検地ニ通次荒地起返
免亦一ホ〻有ニ付味噌醤油ニ而ハ村前も
統御ニ而ハ御年貢お合ニ而ハ外武十ケ年ニ而ハ貧窮百姓有
〻村検地及候ニ而ハ人別減ニ而ハ村方〻衰
小お成ニ而ハ御救合〻ニ而ハお互〻ニ村役人ニより

小前ニも一統得と申上来り候ニ付
一両時ニ分限ニ応し一年ニ弁金被
仰付村ニ貸附置右利金出来書金貸窮ニ
相渡候儀ニ付お汁粉ニ而ハ九ヶ年以前隣村ニ質地
利弐百両余ニお成ニ候ハ、
取ニ村内小前金貸窮ニ
被仰付候ニ及候ハ、

何卒相変ハラズ御庇護ヲ以テ平穏ニ消光仕度候右ニ付
テハ御多用中ニ候ヘドモ一応御評議仕度候間
御ご遠国ニ候ヘドモ一応御評議仕度候間
万障御繰合セ御来会ノ程偏ニ奉希上候
追テ村役人ヲ始メ小前ニ至ル迄一同ニ申聞ケ候
右御返事ニ御来会ノ旨ニ候ハヾ一同ニ申聞ケ
一統ニ御来会ノ節ハ村役人弐拾弐人ニ
限リ御来会アラセラルヽ様御書付ヲ以テ
御通知アラセラルヽ様仕度此段御願申上候

寅
九月

国立公文書館
National Archives of Japan

右市嘉平妻ゑち儀病気ニ付別紙之通書付ヲ以松平丹波守
出張所ヘ御役人御差出之上別紙之通書付ヲ以御届申出候
処、右市儀も親仁病気ニ付看病ニ罷越度旨願出候ニ付
御役人ヲ以書付ヲ相添代役申付候上

寅十月

旧人妻
ゑち

伝別ヶ小宿百姓市蔵親孝行ニ付御褒美銀之儀ニ付書付ヲ以
松平丹波守出張所ヘ申上候

松平丹波守出張所

伝別ヶ小宿
百姓
市蔵
当寅十二歳

右之通松平丹波守出張所ヘ伝別ヶ筑摩郡中山道御役所ヘ

女山宿百姓長九郎ニ中ものニ候ニ付出府仕九郎
儀ニ武十ケ年以前安永巳未年七拾九歳ニ而病死候
ニ而同村ニ而八十八歳ニ而ニ人ニ而渡世仕ニ候ニ市左衛門ニ生育
ニ候ニ人有之ニ家内ニ人ニ而渡世仕ニ候ニ市左衛門ニ生育
実体ニ而孝心ニ而ニ候ニ付村役人ニ而ニ申ニ候ニ付
ニ候ニ付長九郎儀ニ而ニ候ニ病気ニ而ニ耕作も不仕ニ候ニ付
もの今ニ而ニ志困窮仕渡世ニ而ニ候ニ付ニ候ニ

此度ニ而ニ市左衛門ニ申ニ人ニ而ニ候ニ小作ニ而ニ耕作ニ而ニ稼
ニ而ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ
ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ申ニ候ニ付ニ候ニ

側をふ離女抱仕相果ゐる墓糸ゐ毎日出懐忘今次
出校先合ゝ前ゝ指別何狂風雨ホ法ゐるも出懐忘
無数ゝる自統ゐ次事ゝ老衰暮りゐる人ゐ教ゐ話
他ホゝ前ゝ親教話ゝ方ゐ人ゐ教ゐ出用事ゝ
ゝゝ母ゝ人ゝホ衆ゐ花狂ゐ日夜ゐをゝゝ春
告被ゝゐ親教話ゝのゝ先持妻ゝ求め
妻人ゐ孝養ゐ母ゝゐ旅合宿ゝ青ゝゐ妻ゝ

縁組ゐ母ゝ花中動ゐ文市九露ゐ中ゐ妻ゝ
求先母ゝゝ先ホ育ゝゐゐ何
安ゐ自分ゝ人ゐ成ゝ仕度ゐ中所ゐ
母ゝ生質宜実言ゝりのゝ見ゝ要妻人ゐ抱
被ゝゐ他ホゝ前ゐるもゐをゝ老母ゐ養ゝ
相着ゝ中其上年次ゝ縁組被ゝゐ花先
母ゝ要宿お動ゐゝ生涯ゐ収納ゐ母ゝ母ゝ祈念ホ

お仕せて申迄中ゟ当（隣）宿沢馬町一石此奥金
娘ゟ七ツりのを天明六丙年妻ゟ娶ひ者
後ゟ実体成生質ゟ者ゟ不取柄ゟ
心底中ゟよゟも遊ひ歩ゟ事ゟ者
一とい申ゟ家ゟ亡妻忌日おゟも香花佛供ゟ怠
深切ゟ者ゟ敬ひゟ稀成女ゟ親類近ゟ
仕尚年取ゟ男子ゟ者ゟ困窮者ゟ渡世ゟ
ゟ迷ひた暑ゟ気ゟ節ゟ至夜ゟ蚊ゟ
ゟ寝外側ゟ不離自分ゟ夜中ゟ寝外ゟ
ゟ扇ゟ不断ゟ者ゟ蚊ゟ
人ゟ召成女人ゟ者ゟ
迫ゟ事ゟ村役人ゟ
相番中ゟ且又老母ゟ

不自由之為宿ニ半居為ス退屈ニも不堪候ニ付
折節ヨリ希ニ勧発又ハ
中ヨリ貰ひ受抱ル者一連歩行ふ自由ニ
致ス者ニ候ハヽ此度ノ
養育籍ニ加ル事ヲ願ヒ
ハヽ相止メ右ノ子訴ヘヨリ
貸捨ニ
相成ル
訴ヘ
勝訴ス
当次第
変ニ
ヨリ
急ニ
ヨリ
ヨリ

国立公文書館
National Archives of Japan

為見習ニも差出置候間、何卒御賞美之御取扱被下候様仕度旨
伝別役人共之中歟ら外掛合被参候ニ付、左之通申上候上

寛政六寅年十月

松平丹波守家来
高関久六郎印

同六寅年十一月十日松平伊豆守殿江上ル

辻番之儀、代官所
二而寛政取扱候村々奇特者之儀ニ付相伺之書付

辻番之儀、代官所
二而寛政取扱候村々奇特者之儀ニ付相伺之書付

書面伺之通申渡候条、其意可心得旨
寅閏十一月廿七日

柳生主膳正
久世丹波守
間宮法橋
依久間基八
大久保内膳
肥田十郎兵衛
於末新右

辻番之儀、支配所二而寛政取扱候村々奇特者之儀ニ付

外六人ニ而ハ困窮村ニ相違無之候
仕候ニ付墓守相頼候処ニ而
一元金弐百疋

辻墓守御代官所
三列宝飯郡
赤坂宿
問屋　喜十郎

宗右村
百姓　八右衛門

但本文弐百疋之内ニ而ハ食料合諸掛借返納金ニ
渡残金壱両ハ別ニ利ニ而
七ヶ年賦ニ而貸附候申年ニ者ニ而利倍金ニ
以元金弐百疋書面之人ニ而相返シ可申候

大野村
百姓　久兵衛

尾花村
百姓　吉右衛門

金貸附並右利金之儀
取違ひ入用に仕候段
右之去ル七月中大雨ニ而川々水仕ニ而額田藩
ニ而ハ村境切ニ田畑家居迄ニ而ハ相成ル食
糧道具ハ押流し及ひ着た切ニ而ハ
何ニも食料備ニ
ハ少く御年貢未進ニ而ハ貸附金ニ
上納ニ候ニ付右ニ人ニ而ハ
及退転ニ付右ニ人ニ
償並ニ御救ニ
基ニ帰農ニ
百両書ニ通ニ
残金ニ貸附ニ
返ニ上ニ付ニ

国立公文書館
National Archives of Japan

右之通取建候後入用之儀者
其寺檀中より取集可申候
若又檀中より不足之節者
右之内より相渡可申候
為後日仍而如件

一金百弐拾両

同人南分取扱ニ而
同国加賀屋村
百姓 与兵衛 印

百姓 長三郎 印

百姓 忠兵衛 印

但本文百弐拾両之内を以下伏原村引庵百姓代
食代ニ御渡残金年ニ壱割ニ分ニ利足ニ而南宮大
神江七ヶ年之賃附ニ仕申年毎ニ利倍金
之内ニ而元金百弐拾両書面三人ニ者共ニ御返シ
申残金貸附之利金ニ分右引庵百姓江渡
金ニ而村永続為ニ南宮大神江献備
取建入用ニ相渡且ニ而那ニ村ニ而ニ帰蔵

二ヶ所ニ而建退ク救難救貰入囲並急救ヲ
小仕稼ヲ
右之二反宮服部下作服村ヨリ後連ク及困窮ニ退
轉潰百姓出来因村ヨリ因家救百二拾二軒ヲ者ハ
他借金相當持地ヲ鐮相成兼弐拾七軒ヲ私ク
前退轉いたし百六軒ヲ潰ニ及ひ右持地ヲ
組合又ヲ村惣作ヲ品年貢夫納いたし他村ヨ

公稼神ヲ右之人ヲ
泳因窮相募一村退転ニ仕候ニ付右二人ヲ者ハ
合書面ヲ金百ヲ拾両ヲ救助ニ
鐮百仕度候中ヲ
多除荒地ヲ弐百ヲ拾石余ヲ
壱ヶ年引米ヲ
来ル石余ヲ

納置未年分ヨリ午ノ年ニ至リ
成年分本免ニ相当ル石余完ク相増十ヶ年目
十七人引高一百姓仕出シ申ス処ニ男女百八
迫ニ因稗買入候ニ付食ヲ渡百姓株ヲ売ル
年賦ニ仕利倍ニ仕候ニ付三人ニ者共ニ元金相
返シ一村残金ヲ書ニ認メ仕候村永續ス
因茲村ニ為救ニ申出ニ仕候ヲ先達テ甚ニ帰申

立ル日右ニ親ヲ失ヒ孤子有申渡ス
右ニ通七人ニ者ニ候村方困窮ニ相救申合ル
分ニ合仕ヲ分村ニ相續ニ申ス
小ニ子ニ家ニ有物ニ家ニ有ニ旦右ニ金預ケ置
元ニ帰ニ吟味仕ヲ受ケ日賃ニ雇候ニ相用ル
實ニ成者ニ申ス支配所村ニ
ニ仕候ニ付仕ヲ候ニ帰申立ル

国立公文書館
National Archives of Japan

同六寅年十一月二日松平伊豆守殿江上ル

覚

山口浜之助
武刕野刕村々寺物者之儀ニ付相伺之書付

書面伺之通
可申渡候
寅十二月二日

柳生主膳正
久世丹後守
間宮備後守
佐久間甚八
大久保内膳
肥田十郎兵衛
松平彦右

右之者共儀平素行状宜敷及聞候ニ付村之
ゟ之通賞与村中之ゟ茂賛合いたし候ニ付
相違なく村方一統帰服いたし農業出精仕候
寡ニ付村柄ゟ追々立直り教育丹誠仕候ニ
ゟ当ニ相成候ニ付称賞ニ相当候ニ付
賞状別紙ニ通相渡候様致度
因テ之帝国憲法中ニ定ル自治動定ニ
ゟ特ニ賞状ニ相当候ニ付
書面之

支配勤定格
置賜県参事次
山口政令帝国会計支配
武列記之郡
本行村
各
大江帝

野列記次郡
小松六村
各
八帝国憲法

同人伴
各
勤解由簿

こりのため右出願受理相成候ては
出願人と事務の後々不都合の儀
代願書相添上
寅十一月

出願人組頭
田辺文助書判

私共立会支配所武州村大江帰農
添六村八郎右衛門同人伴助解由書等相
こ取斗方仕候段相違無御座候
以上

右大江帰依当村名主役相勤田畑弐拾石余有
持いたし一昨巳迄数代名主お勤め家筋之者ニ
て一昨寅年貢米金割合之儀ニ付村方江対し
当時白小仕先年より村内ニ奉公ニ参り居候
村方ニ而田畑他村ニ質入ニいたし候ニ付
追々借主之ものニ相成候ニ付
ニ而之ものニ相譲方ニ而一ト理解中ニ付困窮
ニ而之ものニ而米金種肥代等迄ニ貸出農業
お精ニ而働方ニ付年来ニ而ハ世話役
宗門迄ニ而困窮之ニ付他村ニ入質地ニも
庄屋ニ而当時ニ而ハ他村ニ田畑ニ而ハ他村ニ

弐拾弐石
本百姓村
名主
大江帰
寅四十八歳

祖ニ於テハ年貢上納方モ頗ル一日限通リ為ニ
上納イタシ兼ネ候ニ付一同難渋イタシ其中
村方ヲモ於テ守農業ニ一ト為ニ田畑ヲ入訳ニ當
年ヨリ勿論水旱損毛有之候トモ小前ニ
ヨリ一ト成丈ケ利解申合ヲ以テ不納ニ
決シテ年貢ヲ為相納其上ニ於テ出精ヲ以
取続リ申ス様ニ可致ト申ス先ニ於テ
簡ニ定メ先達来一新水掛リ後モ見込ニ代用水流末
ニ村方ニ用水路ヲ開墾勝所ニ付キ年々ニ農業
ヲ遂ニ希組合村ニ人ニ頼ヲ為ニ出張ニ
當役一人ニ付キ一ト重ニ當ニ
居人ニ同様ニ於テ自分ヲ働ニ
お働ヲ自分ニ方モ於テ開墾組合村ニ
成ニ於テ右ニ通リ為ニ仕ニ

を以て農業お精い出し一旦物変お以て
村中疲弊に及ぶおいたし候ものも
多く候て衰微引続き右躰ことのも
拠村法お立打ち小前を集め人組帳差出
置て御取締方申渡候事に候得共近年に至候ては
百姓多く村中和融いたし候て農業致出精
候ようにては大に御世話お届ける村柄にも立至候
迚も村々ことのため
野方取締
小沼六村
惣代
八郎右衛門 宝七十七歳
同人伴
惣代
勘解由左衛門 宝二十歳

右八郎右衛門儀寛文年中以来代々惣代役相勤

此もの儀高四拾六石余所持いたし伜勘右衛門
父子共ニ実躰成ものにて農業出精ハ勿論世話仕候
間十三年以前寅年迄六郎左衛門支配之節勘由
左衛門儀も名主ニ申付近村々名主兼帯為致置
元締等も宜小前之ものとも農業出精いたし公
事出入等も無之極元扱ひ年貢納方之儀も觸ハ皆
限前ニ取揃相納其外懐勝之もの共貧窮之者ニ

は合力いたし右衛門被させ其ひつ迫致候無之極内付
且自分之持林壱ケ所村方助合之たメ差出し立木
売払代金貸附当時金弐拾両余溜り右金子
をも困窮之ものとも相渡し手当いたし相元
續て取立年々利足不差出極村方之立置申付置
て困窮之ものとも相渡農業渡世仕候様
奇特之儀ニ付農業一途ニ父子共早朝より自分

耕作いたし～村方一統敬仕候

右二人之もの共儀日頃教導之段取扱之村～迄村～ニ而も奇特之
取計村～ニ而もお礼申聞候ニ付いつまで～村方ニ而も奇特之
取計ニ付中之芳合仕置お達お聞届実～教導行届候ニ付
ニ而も追～之通丹誠仕候ニ付
ニ而も格別～思召を以御沙汰も
御座候仕度旨を以村～ニ而もお賞状
お授与被仰渡候ニ付村～ニ而も奇特之
取計ニ付中

寅十月

當管内年寄
山口祝入師

同六寅年十二月十二日松平伊豆守殿ゟ

松平主殿頭江被仰渡
肥後國天草郡参特者之儀ニ付相伺之書付

書面之通被仰渡奉承知
候以上
寅十二月廿六日

松平主殿頭江被仰渡
肥後國天草郡御料村枝之大庄屋
御生立賜ニ
久世丹後守
同宮内少輔
依久間甚八
大久保内膳
肥田十郎左衛門
被差添支配吉

右清江帰観清水藩旧村々勿論近郷百姓難儀
之もの共へ米穀雑穀酒醤油銭ホ共を不残
取本政一ツ半安永七成年撰要類従支配ニ帰
中之為出寝共浪拾枚第一通苗字ニ孫近名乗ハ
ニ相心得候様ニ統一ニ文清江帰代よりお成ゆるも引続天沼
三郎年ニ殿沢出ル引訓て右ニ去ニ子年ニ拾ケ年

百姓
小山清江帰

ニ同米弐拾弐石余数八百江拾九石余大麦ニ拾九石余
味噌三石余酒百弐拾ニ石余大豆七石余豆弐拾七
石余粟ニ石余ニ外不ニ米ホ又云ル申年村方
行支食ニ相出ル初ニ拾ケ年ニ宮数ホ拾石宛ニ共
右宿中ニ行支食ニ同ニ共船ホ云ニ子年出ル
増春共ニ申リ及難儀ニ者ホ数百七拾三石余
酒弐百俵余共右一神参詣ニ者ニ弁ホ無ニ出寝

寅閏十一月

肥後國天草郡百姓
小山清三郎

肥後國天草郡百姓共
松平左衛門
佐野ノ領

元

右者松平主殿頭御預り所肥後国天草郡御領村
小山清四郎与申者高千石余所持仕罷在候百姓
小山庄助養父清四郎亡父清兵衛儀仁心成者
ニ而居村之者ハ勿論近郷之百姓難儀之者共ニ米粮雑
穀施遣池樋橋等ニ至迄百姓之為ニ相成奇特之志斗
仕候ニ付御褒美銀被下御支配之節中苗字有之安永
七戌年十二月為御褒美銀拾枚被下置子孫まて

苗字被差免置候 併清四郎代ニ相成候而も
身元宜天草郡中ニ而質ニ取候仕難儀之者撫育
格別ニ救方等仕並外難儀之者共ニ年之豊凶ニ
不拘毎年相應ニ救方仕且村之役人共申聞候分
年主殿頭御預り所之節 併清四郎後去ル子年まて
拾ケ年之間郡中ニ救方仕且又火災之者ニ施候
段奇特之趣相聞候

米弐拾弐石余

粟弐百弐拾九石余

大麦三拾九石余

味噌二石余

塩百弐拾弐石余

大豆七石余

空豆弐拾七石余

粟弐石余

唐芋壱万八千弐百弐拾弐束余

銭弐百弐貫文

唐芋切干拾七石余

大竹弐拾本

小竹弐拾束

枝木弐百拾弐本

絶三拾米

明後弐百三拾後

業弐百把

右之外ニ義浦ニ帰ル者大浦浦男女七百人余内
六拾人余ハ年々豊凶ニより救方仕ル拾人余ハ極
貧ニ者ニて年々豊凶ニ不拘浦ニ帰住不致分
別ニ而ハ施物ニ而ハ救助仕ル難ニ付其旨具ニ云ん

申年村方飢渇ニ而餓死ニ及ル者有之
ニ付而ハ御仕法ニ而申ノ年ヨリ来ん巳ノ年マデ当拾六
拾石宛年々郡中ニ而救ニ充ル外ニ郡中ニ而救ニ充ル
ニ不及ニ付御参特ニ而御参並ニ御借
渡ニ而ハ救ニ不相成ニ付ニ而ハ年々郡中ニ而
中一統ニ凶作ニ云ニ至ル迄必ニ至ニ而ハ及
飢渇ニ者ニ而ハ別段ニ郡中ニ而八拾弐ケ村ニ

数九百七拾三石余陸弐百俵余為救米出候事
元斗仕切天草郡之儀ハ弐万三千石余ニ満不申候
人数ニ而指当方六千人余有之ニ不相応多人数ニ
支配ニ候ハ、ニ者ニ而ハ無之候ニ付御代官勝ニ申渡御
役元久保弥兵衛元斗方ニ不相着候ニ付其
救穀ハ先出置候ニ者ニ而ハ無之相応ニ出置
夫ニ義ハ御役儀中上候事

寅
閏十一月

松平豊前守家来
川口長左衛門

同七卯年正月廿六日松平伊豆守殿ゟ上ル

大国源右衛門代官所
備後國小野村百姓ゟ御訴訟ニ付相伺書付

書面何ゟ御訴訟奉申紀
文備後奉申紀
卯正月廿七日

大国源右衛門代官所備後國神石郡小野村百姓

柳生左膳忠
久世丹波守
岡宮筑前守
佐久間基八
大久保内膳
肥田十郎兵衛
設楽右京

長谷清次郎右衛門村ニ而
ニテ上ケ候ニ候相預り百姓源右衛門
就而ハ中上ル

一 銀二貫目

右神石郡ニ候相山中ニ而
俵後國神石郡
小野村百姓
長谷清次郎上ケ銀
ニ候中ニ立ル分

ニ而除荒地多ク〻ニ田方ニ荒地ニ年ク〻ニ作リニ
立ル方ニ物方ニ分ニ村惣作ニ〻ニ請ル年貢ニ
地ニ分ニ而入不申候ニ而ニ候ニ分ニ而
小百姓ニ而ニ困窮ニ而ニ暮ニ分ニ右長谷清次郎ニ
就ニ返ニ方ニ候ニ而ニ申卯ノ八拾七歳ニ相成ニ
若イ者ニ村内荒地ニ〻ニ分ニ而ニ返ニ
ニ候ニ而ニ村ニ荒地ニ而ニ山中ニ里数モ隔リ

も殊面毛以何とも困窮不一方村々自力を
以一返一切来仕難二付一統安堵仕度
御恩澤農業相續仕来候義有仕合二付而奠
加銀已貢日限代官役所江相納
法を以相應之銀高二相當候村荒地起返シ
而已を専一之村仕度段歎出候二付源藏
方江相託候処右歎之通村荒地起返シ
年来農業相励捨別而困窮之者ニ対し助合
村方之取扱先ず其外村内融通之
ゆき場所を通達おもむきいく一軒参拾之者ニ
此度御下銀之内ニ而金拾両ツヽ御渡
年賦利分を以貸附銀ニ而
成ゆき元銀ニ若亜貸附元ニ而毎一年ニ利銀
ゝゝ通郷之除荒地ニ而多ゝ有之村方ニ而次男

三男小他石ゟ〳〵者引取〳〵其外ハ石地ゟ追〳〵荒
地石ゟ返シ候仕随而ゟ右長ゟ情像及極老ニ而
農業ニ精仕ゟ事ニ志も厚キ者ゟ外村〳〵励〳〵
為ニも相成ル為ニ御ハ〳〵ニ御褒美ゟ事ニ重キ積仕度
添右通中立候〳〵評決仕ル事ニ候外ニ料所
村方〳〵者勿ゟ右荒地起〳〵返〳〵ニ而ゟ事
外小児養育料ゟ〳〵事ニ追〳〵上ゟ金ゟ 修利信仕
法ゟ儀ニ添右通中立候通為ニ候共ニ而ゟ義ニ御
(八)御趣〳〵ニ御褒美ゟ事ニ重キ方ニ而ゟ事ニ候
相成ル事又市郷村名ゟ又市郷村
困窮致〳〵候而ハ追〳〵相増ル事ニ付右ニ而助金ゟ為
多高第ニ相応ゟ利金ゟ内ニ除置金弐百
両玄寅年ゟ支配ニ代官ニ渡シ置候切ニ御村

貸附ケ上利金ニテ今年ニ村内困窮ノ者ニ割
渡ス上法ニ百姓ニ米ヲ不渡様仕度旨申立其外ニ
モ米麦大ニ不足ニ付村内難儀ノ者ニ救助
ノ為メ金ニ百両ニテモ右ノ御貸米ヲ以テ御
出張ニ而御二枚ニ御直ニ御渡シ被下度旨ニ
モ二ツ三ツ在ニ而御二枚ニ御直ニ御渡シ被下度旨ニ
モ二ツ三ツ在ニ而御二枚ニ御直ニ御渡シ被下度旨ニ

本文例ニ見合ノ為メ上ケ銀ヲ御渡ノ節ハ
御引取ニ相成度旨申立ル共半ハ有之ニ付ノ
上ケ銀ニ而ハ不足ニ付拘候ニモ不及事ニ付
最寄清ル銀ニ而御渡ノ節ハ積リ中上ケ候ニ付

同七卯年六月八日安房對馬守殿ニ上ル

中山道
板鼻宿本陣 森田清親 森田俊之丞

書面森田ニ相渡候旨承知
卯七月八日

安東平作謹
根岸肥前守

堀左京亮ヨリ代官所
中山道板鼻宿
本陣森田清親
森田
卯七十九歳

右私同様同宿本陣ニ而田畑弐町七反七畝歩余所持仕
農業ニ而渡世仕候高弐拾俵ニ弐人扶持
いたゞき宿役其外押高ニ而農業ニ而渡世仕候
処ニ右同様ニ宿内ニ而ハ外ニ農業ニ而渡世仕候
年始ニ而ハ惣而今日ニ耕地見ニ而ハ無之候ニ付
第一ニ而ハ教諭ニ而ハ教諭仕候ニ付外ニ
入方ニ而ハ無之候ニ付右ニ見習村内一同ニ而取扱
宿場人馬ニ而ハ無之候ニ付百姓仕候ニ付
宿内ニ而ハ此相成候ニ付世話仕候ニ而ハ
ニ而ハ無之候ニ付宿内旅籠屋ニ而ハ宿役人ニ外
世話役ニ而ハ元ニ而ハ為ニ付右
ニ而ハ年中無夜ニ而ハ別段
法ニ而ハ家別ニ而ハ右宿ニ而ハ一軒同様仕候ニ付
年耕作ニ而ハ惣而ニ而ハ多分出来ニ而ハ

立ち申し候間宿役先支お願
申し度き事書き認相遣し申候
農業お精仕宿内元締方宜耕作出精
宜き間老年ニ而隠居仕候共今ハ出精
隠参特ニ筋ニ成お望ニ而候ハヽ指別
ニ出情ニ相成候ハヽ稼ニ応じ
中分ハ倍ニ評決仕候事右申立ニ
よ有ニ精出ニ励ニ為ニ成候事相違ニ出候ニ
常ニ重ニ荷仕度事ニ候ハヽ倍ニ
子六月

同七年第七月廿六日戸田家女子殿右上ル

小笠原建度四代官所
丹波国下滝村庄屋江療治ニ遣ス使相伺ノ書付

書面伺ノ通江療治ニ遣ス事ニ而差支
無之候事
八月七日

柳生主膳正
久世丹後守
間宮筑前守
佐久間甚八
大久保内膳正
肥田十郎兵衛
於本多新吉

右長蔵儀年来広度役相勤
おおよそ役務お勤め退役仕度旨を長蔵
儀享保十六亥年広度役ニお永尚卯年迄六十
ヶ年相勤村内老練指別置く村入用ニ而厳
重ニ先斗費成候儀も無之候ニ付御
も更ニ理解申ニ付事済の上及お断候ニ付
う治方も宜ニ付退役ニ候一流弥参ニ而勤向
助合ニ候ニ付先留ニ而不仕ニ付ニ而非難書
先ニ而教年ニ而帰広度役お勤ニ候ニ付参
ニ而教度旨年参ニ而越度方ニお預ニ
通村ニお礼ニ而文右申ニ付右

小浜藩広代官所
丹波玉水ニ而下流村
長蔵
長右衛門
卯八十歳

村ニ於テ困窮ノ百姓ニ対シ其水干損ノ
ニ籾ヲ以中ニ籾ヲ加ヘ納ル年貢納方年来ノ滞
候ニ付テハ村中ニ籾ヲ以テ其ノ
通ニ候ヘ共中ニハ参拾俵ニ仕ル
候仕ル年来百姓ノ内ニ年貢先滞候
ニ付テハ村中治方宜ク六拾ケ
年余モ候ハヽ神妙ニ候ヘハ
ニ而村ニ百姓ヲ励シ
褒美ノ銀ヲ被下ノ方ニモ
候ニ付テハ

九月

寛政七卯年八月廿六日

早川八郎右衛門代官所
武州岡三俣河東村孝行者之儀申上候書付

早川八郎右衛門代官所
武州岡三俣河東村孝行者之儀ニ付申上候書付

書面之儀ニ付名主役指下ス之間差添差出候
仍而如件
卯十月十六日

御奉行所

早川八郎右衛門代官所武州岡三俣河東村百姓
三郎右衛門倅母ニ孝行仕候村役人申上候書付

国立公文書館
National Archives of Japan

八帥左衛門書付差出候間則写入御覧候而
三帥左衛門へ御渡し申候様仕度事御伺候
以上

卯八月

御生写相違
早川八帥左衛門差出候書付写

私代官所
天領国大庄郡二俣河東村
百姓
三帥左衛門
当卯六十二歳

右同人母
英津
当卯八十九歳

右二帰有之候老母実弟ニ孝〻ニ報村役人申合
相応之取計ニ帰有之候処又右二年余病死仕
候ニ付弐拾八ケ年以前子年病死仕置候弟
候も病死仕ニ付来母み津義当二帰有之候処
ニ而困窮ニ渡世仕ニ帰有之候処初〻〻御ニ基志置
候義ニ随ひ実躰ニ耕作出精仕候ニ付又右病死仕
候同人妻ニも御ニ教組合〻〻者共ニ妻帰有之
動〻ニ実兄ニ次帰有之候ニ付同人妻ニ組仕候ニ付右兄嫁
母〻ニ孝心ニ不相叶家内不睦離縁ニ致〻〻ニ及見候
ニ付ニ帰有之候ニ付妻ニ組い孝〻ニ候ニ付
不申候ニ付ニ致人を以ニ致又ニ自分〻〻ニ孝心ニ遠
は老母〻〻ニ抱も難ニ付而有之候ニ付中ニ動〻ニ一切取〻
不仕ニ而ニ貧ニ苦ニ候ニ付母〻〻ニ好ニ事ニ不相勤ニ費ニ
も厭ニ帰有之候ニ付ニ孝心ニ老病ニ候ニ腰ニ

不中家内ニ歩行成相叶不中ハ勿論大小便ニ
抱ニ相成人目ニ不中板元ヶ外ニ
ニ候ヘ共ニ用ニ候ヘ共抱替ヲ
飲食ヶ嚊ニ候方中ニ常人ニ及中候ニ耕作
野山ニ不行届ニ候ヘ共ニ立向ヒ
ヲ相伺滞ニ候ヘ共ニ相見候
右ニ候ニ付為届ニ
ニ候ヘ共ニ元来困窮ニ小百姓ニ老病ニ
ニ候ヘ共ニ十家余ニ
中ニ候ヘ共ニ
ニ帰農ニ
ニ候ヘ共ニ相稼ニ
ニ候ヘ共ニ
ニ候ヘ共ニ
ニ候ヘ共ニ

勤助方ニ朱ゟ〳〵夜食ゟ〳〵被仰付候ニ有〳〵而
不自由なから毛年来仕別而も外抱候ニ今又外ニ抱候
安〳〵ゟ〳〵老ニ候ニ付抱候而ハ
参度ニ而〳〵真ニ力ニも相成申間敷
養ひ二の中ニ用ニ相候仕候ニ不仕左候而
組合年老〳〵者ニ而三帰ニ而寡ニ幼女ゟ〳〵外ニ
兄弟ニ而七軒ゟ〳〵の女親ニ而ニ大切ニ致
長仕ゟ〳〵相働ゟ女親不自由ニ而ゟ〳〵抱而相養ニ而
中呑ニ而ニ遠歩ニ而ニ不仕候一切不仕通例ゟ〳〵小児ニ而ゟ
事替ゟ〳〵歳ゟ出産ニ而ニ年長小随ニ而ニ果ニ而ニ遠ニ而ニ又
先年ニ而ニ屋宅ニ而ニ会談候ニ而ニ帰ニ而ニ寡ニ宅門ニ而ニ通り見
候ニ而ニ女ニ而ニ参ニ而ニ雇ニ而ニ置ニ而ニ参ニ而ニ雇ニ而ニ亜麦ニ而ニ更
さセニ而ニ身ニ而ニ雇ニ而ニ踏ニ而ニから毛ニ而ニ女子ニ而ニ抜ニ而ニ心ニ而ニ仕ニ而ニ賄ニ而ニ
雇ニ而ニ候ニ而ニ物ニ而ニ事ニ而ニ〳〵ニ而ニ通ニ而ニ取ニ而ニ其

隣家ニ至リ承合ニ及ヒ候処
病気ニ而寝入ニ付
寝入ニ付
相遠右ニ通老母ヲ抱キ
此度自然ト田畑ヲ入
妻縁ニ而相勤ル
ニ者ハ働取候ニ付
養当ニ付
候他不ニ付
難渋ニ付
ニ而
お取扱一向承知不申
通相遠ニ而
村役人一同申立ニ付

国立公文書館
National Archives of Japan

令村役人中立合遠ク困窮者ヲ相
撰二帰宅被仰付候節ハ
其家内ニ老病之者又ハ
外勤等ニ而食事不仕候節ハ
心ヲ尽シ相養ヒ候様ニ仕候
中ニ付二帰宅親類ヲ
未帰宅ニ而ハ
其儘ニ而ハ
相勤候ニ付二帰宅
指支ヲ差引ニ
有之ニ而成丈相労リ大切ニ仕候
取扱ヲ
くいたし
村内惣百姓ヲ人別相改
小ヲ
者ニ而ハ
着ニ
相勤候
有之ニ而
指支ヲ
有之ニ而
取扱ヲ
くいたし
村内惣百姓ヲ人別相改

親敷大名中之内通相達候
座村目木村大庭村上河内村お礼
像之年日親ニ孝行いたし
及聞届候旨申ニ付一同中ニ
出座候ニ付年相高ク出座
候ニ付中ニ入
卯七月

早川八郎右衛門

同七卯年十二月二日安藝對馬守殿上ル

於本門二帝出代官所
受濃國新特者出襲受ル書付相添ル書付

書面之通ニ古義ニ而又候ニ
為出襲受取ニ校家弟重右衛門外
弐人指宇常力 出発ニ而江戸
及候ニ付為御知ニ
巳二月廿二日

於本門二帝出代官所受濃國福面村古義外

三人出願共出願取仕度候間中立書狀仍而如

件

淨泉寺三師代官所
茨城縣東山絲那福田村
百姓三郎兵衛親

古右衛門

右古右衛門儀年來東山絲那代お勤老年

お訳出候事別実躰成者村々ゟも相歎之儀趣

代お勤候事故一躰貧村ニ而農業方専ニ

心懸候者ニ而

貧窮世話費用ニ而厄介

ニ帰候者ニ而

候趣村治方宜ク取扱

候ニ付

同人代官所
同國茨城郡花園村
百姓
吉右衛門

右之通ニ候年來百姓相勤農業専世話役

村内共通村〻にも宜く先ず
差支ニ不相成様先半ば迄
世話ゐたし多分お減し
ゐく都中ニも一同帰服い
ものゝ世ニ生

同人代官所
行勝国栄名跡永対馬浅新田
石附
又左衛門

右之通ニ候村内農業ニ
世話ゐたし先達而ニ作出
ニ候ニ付而ハ世話ゐたし大切
先達而ニ村〻迄も
を村〻ニ而ハ大切ニ取込村内
の特ニ

右之通依醫師渡世ニ而
内平和之年中困窮者ニ
度々施ニ
作料等も度々不取
同人旧代官所
天濃國西山藩飛騨村
醫師
春甚

右之通何も奇特成者ニ
重而被仕度旨支濃國ニ
有之村々ニ而合力之事
奇数之村役人共ニ
苗字帯刀被
帯刀も不仕ニ

一躰之氣請も不宜候てハ成候儀ニ付沙汰候て書面
三人之者共江苗字帯刀差免候得共　但有去寅ゟも相
追々此度褒美人ニ而帯刀差免候様仕度候間三郎中江申付
評議仕候處又何れも奇特成ものニ而右之者共是まても
苗字帯刀仕居候ものに無之右者兼而被仰付候儀ニ而候とも
庶外頭分之釣合有之旁帯刀以上者居候様ニ而自然と
右ニ付小前一同之氣請宜候ニ無余儀筋ニ付右之段申上候

右申立候趣古右衛門又右衛門儀ハ為此度褒美当人
一代帯刀苗字之儀ハ孫代迄右名字差免且銀二枚ツゝ
下遣候方ニも可有之候得共此段猶伺之上門三郎江
右ニ付書面相添此段奉伺候以上

卯
十二月

英濃
伊勢國代官所ゟ者出候
於本門之節

私代官所英濃伊勢國村ゝゟ用状
今般本免之外ニ五ヶ年ニ而ハ
ゟ中民間窮ニ而ハ
豪吏ゟ相見不申

半弁特成ニ付
後見ニ申上ル

私代官所
濃州本山筋
福富村
庄屋三郎兵衛親
古右衛門
卯七十歳

但三郎兵衛儀弐百六拾弐石
不持ニ付家内指入人馬差
越不申候ニ付

右古右衛門儀年来庄屋役相勤ニ付半弁
二郎儀年次ニ相成庄屋ノ相勤人物ニ
同庄屋役ヲ先年ヨリ三郎兵衛ニ
二郎兵衛方ニ同居ノ義ハ農業ニ
差支候ニ付私支配所ニ而代ヲ申者
壱人完相立候様村ニ役人申聞
向モ無之ニ付右願代ノ通仕度

は若くより本山藤那村に於て惣代相勤候法立の者退く
及老年候ニ付惣代辞退之儀願出候ニ依て中人入候事
別て実意成者ニ付相勧候ニ惣代相勤候法立
当る退く候ニ及見受候ニ付猶又一神儀村方ニ農
業を勿論小前ニ当方ニおゐて公事訴訟ニ諸用
弁候実意ニ候旨一郷中費用を厭ひ且又事を
好まざる性質ニ候ニ付退役之儀願出候ニ依て中人入候事
候ニ付猶又一郷中ニ於て双方ニ利合を申受相
宥め多分ニ和融為致候ニ依て一郷中ニ於て名主跡
小前ニ候相尋候ニ書面絵図面おゐて奥ニ相
違無之候ニ付猶又一郷中ニ於て名主跡
若年ニ候ニ人撰も宜敷年老ニ候ものニ而支配所
惣中ニ於ても福留村ニ老人ニ中入候ニ一同承伏
候ニ付猶又一郷中ニ於て取斗ニ候特成者ニ候ニ付

持ち参り候
但家内七人
馬 三疋

右惠吉儀年来在所役相勤百姓農業おろそか
仕候者無之候へ共相応之暮しも相分りかね人柄ニ見請候間
私宅松ニ引越候後年々検見請候ニ付ハ新規之
免相成候方村為ニ可相成哉之旨ニ付利害申聞候へ共
私代官所
同国加茂郡
肥田瀬村
庄屋
惠吉
卯六十歳

承知仕候而ハ多分之増米仕一番ニ新規ニ免
相成候而村々ニ於ても難渋ニ相成候間
村方ニも彼是存込候ニ付ハ新規ニ免
用費方ニ候右惠吉ニ御渡之中金弐両ニ而
表ニ免下ニ為ニ免米ニ而八百石積ニ而渡米
内弐拾俵ハ女余ニ村ニ用相
指引弐分余ニ而免文ニ而納相済ニ相

全く恵吉之労働ニ基因スル其遺族ニ右ノ通リ金千圓ヲ下賜相成候
配所実況伊勢ニ不限外実況方法料所ニ分
年々数度ニ出足ノ者ニ賞与ヲ与ヘ一
統未歓楽ニ至ル外ナキ中ニモ何ヲ事ニ
依テ右恵吉ニ依リ諸相談ニ附テ
扱取扱ニ付労働ニ有之ニ付
ヲ以テ万事為ニ一同相談ニ
宜敷ク特成ノ

持高ノ石余
但家内ニ人
半ト

私代官所
勢州桑名郡
東対海地新田
百姓
又右衛門
卯ノ年歳

右又右衛門組合長源新田村ニ農業ニ下方
ニ依テ村ニ於テ世話ニ

叡慮ニ悉ク御従ヒ被遊候世話ニ与リ候ニ付テハ
感銘ノ至リニ堪ヘス候就テハ
感銘ノ至リニ堪ヘス候就テハ
成御帰荒厚御建設ニ向テ大切ニ存シ候ニ付テハ
御用向大切ニ存シ候ニ付テハ
因テハ国内ノ御為ニモ相成ル事ニ候ヘハ
因テハ国内ノ御為ニモ相成ル事ニ候ヘハ
又ハ私共ヨリ随テ
又ハ私共ヨリ随テ
帯刀ニテ従事実ニ
帯刀ニテ従事実ニ
無ニ
無ニ
右二人ヘ特ニ
右二人ヘ特ニ
其ノ方ニ
其ノ方ニ

苗字帯刀　御免被仰付度事

但私支配所ニ於テ
但私支配所ニ於テ
入費又ハ相談ニ
入費又ハ相談ニ
出入ニ
出入ニ
候ニ
候ニ
実ニ
実ニ

下方ニ元板ノモ怪シク仕料前百姓ニ乱酒ヲ
拘リ候ニ付其節ノ筆書ニテハ其ノ苗字等ノ
免ヲ申ノ右神主ヲ含ミ前モ元板中
度々其ノ其ニ加ニ人ニ実神ニ百姓相続ノ
者特成ニテノ元板中ニモ系貫ヲ
実神ニ筋ヲ御学ノ
其ノ旨ヲ含ミ候ニ付賢ニ為不何ノ申文ニ

私代官所
濃ノ西山旅籠
越村
醫師
佐野次郎左衛門親
佐野春意
卯六十二歳

右春意儀ニ先年限春ヲ
ニ在住ニテ村内農業ノ外ニ醫業ヲ渡世ニ
致シ候ニ付取締ニ被仰教

論い出し通御村々入組候出来候而ハ乱之基ニ
相成不申迄及難儀候遠々之筋合之儀者数割致し
組毎平和ニ為仕村内々困窮之者有之候ハ
得と申くたらぬも申出候様致し且又先達而中上候
之通之場渡候ハ私支配所可見届潮田村無地之儀
も右去寛政初其外分路難用ニ相見候所々走歩
行入百姓共ニ相成候潮田村ニ罷越共平年源切之為ニ候
段寄特成もの之儀ニ御座候間何卒相願之候へハ御褒美被下候様
仕度奉存候
右之通於私奉願候以上

卯八月

鈴木門三郎

同八辰年六月二日安房對馬守殿ゟ

武州勝子村名主忠右衛門

書面何ゝ通忠右衛門
文治渡辺承知仕
辰六月二日

當午年次山口奉行支配所武州

足立郡膝子村名主伴次郎江褒美之儀ニ付
見聞申越候ニ付申上候

右伴次郎儀年来名主役相勤来申候処一躰貞実
ニ而身之為役儀大切ニ心得是迄定式御普請仕
立方等念入目立候程丈夫ニ相仕立、其後洪水川附堤

武州足立郡
膝子村
名主
伴次郎

弐拾両余も減御自普請ニ上並ニ仕、其外右村之者
共困窮ニ及候者江者相応之救遣、名主ケ村方之
ニ而不残御合為致、凶饉之者ニ配当致し候
小前当時田地ニ離候者共も田畑買入相渡し
遣候分追々請戻し候程相成、当年村内之
者壱人ニ付一ケ月ニ縄壱房宛、右代銭相渡
附ニいたし当時金拾七八両も出来仕候ニ付猶又

支配役所より先年亜米利加
為ニ行き候節の積り金を
以村方より次第
役を義ニ付差出
右之趣先達而御勘定方関東
方見込の中突参村
并ニ次第書之通ニ
女人ニ付のも第ニ及取
乗細お礼
ニ付之文面ニ
遠も出役村内小前
ニ付のニ役ニ出役ニ
英吉亜ニ被仕度ニ
被仕候文面ニ
義ニ付ニ役ニ出役ニ

辰八月

関東郡代支配
伊奈友之助御代官所
武州多摩郡上成木村
組頭与膳父
又左衛門

右又左衛門儀天明三卯年凶作之節組頭役相勤
居候処小前之者夫食無之難儀及候ニ付金子差出
無利足ニ而五ヶ年賦之積を以貸渡し右躰之人数多
有之且又翌辰年ハ草木之根葉等其外平日之食物
ニ而も夫食ニ相用候故病人多村内一同難儀仕候
ニ付同人儀粥等拵置村中之者江施し其上和粉文合
壱両二分銭七貫文余小前之者共江合力致
し別而難儀之者共ハ稗麦粉ニ而相凌候尤夫食
足之合ニ為致且医者ニ見せ候者も有之ニ付病
人ニも施薬同様実意之取計致候段奇特之
筋ニ有之候　御褒美之御沙汰ニ而褒美被仕

以上

辰十一月

国立公文書館
National Archives of Japan

右之通りの持高ニ而右余家内九人養ニ而農業仕組
取候役相勤候処去ル卯年凶作理辰年小前之食指
詰飢渇ニ及ひ候ニ付先支配伊奈右近役所江夫
食代拝借相願候得共右ハ大造ゟ少々ツヽ安石出
無利足五ヶ年賦ニ小前江貸渡候得共飢渇人数多
出来候而猶又難儀之由ニ而草木之根葉ニ至迄
平日不相用品を食ニ及候ニ付病人多ニ而難儀仕候

儀を又大造之窮迫ニ而自分之才上向も難分行合力
持候得共如何とも無之候ニ付右支合食代貸渡之外金壱
両三分諸色相指七貫文余小前江合力仕候別而難渋
之者共江ハ備糧米買調並支食足合ニ而老遣病人
等江者医師之見立も有之候ニ付薬調合致し施薬
同様ニ而老若男女ニ而医師之渡世ニ而無之候ニ而薬代
謝礼等ニ而相勤り候儀無之実ニ窮民之為ニ而村役人一同

中立ニ
右細沢与助父又蔵儀警備
廉廉ニ付去ル卯年以来小前肌脱ニ
尽力ニも候ニ付今更代償渡ニ不合
カ本校ニ其外病人ニ
ニ付警備ニ渡世ニ
紹業団教育遣候ニ
お礼ニ又相遣ス
仕度事勝手ニ
宮八月
伊奈友助

武州多摩郡上成木村下分組頭父藤次
右之外取斗候お乳中上書付

和田宿八郎
萩原要蔵

伊奈友之助代官所
武州多摩郡上成木村下分
組頭父藤次

又右衛門

当辰七十歳余

右之通り当分其外小前之ものたゝ平日名取り候
得ともお乳一の中上ゟ差支候ニ付お乳候旨申上ル

一 又右衛門儀持高ニ石余も有之候ニ付家内人数八九人有之
上成木村ゟ同所ゟ下分江一軒医道ニ而
有之尚時ゟ別而医業ニ而
師と渡世ニ候ニ付お乳候旨申上ル
貞実ニ而宜敷者ニ候ニ付

も小前一同及飢餓ニ瀕シ候ニ付食金之内ヲ以テ
支配所ニ於テハ一ヶ年ニ小前ニ手厚ク積リ
貸渡シ秋ノ実ノ中ヨリ返済ニ致シ候ニ付食金有
之候ニ付テハ一ヶ年ニ小前ニ手厚ク積リ
又ハ小前家別ニ割合ヲ以テ一ヶ年ニ
旦那ヨリ金壱両ニ付玄米弐俵ノ雑穀半食ノ米拵
ハ一ヶ年ニ八用ヒ候ニ付テハ一ヶ年ニ
厄或ハ新ニ指出シ右ニ付テハ又ハ貸渡シ
湖ノ中ニ於テ云ヒ卯年ヨリ辰年迄ノ食物一ヶ年ニ
ヲ以テ給別不申ニ付テハ病人多有之其ノ
又ハ貸渡シ候米ヲ以テ病難ヲ救ヒ今ハ
ヒ村ニ病人有之候ニ付テハ米ヲ以テ其ノ救ヒ
候ニ付テハ病人有之候ニ付テハ其ノ救ヒ
前ニ於テハ米代ヲ以テ救ヒ中ニハ病人多有
ヲ以テ救ヒ候ニ付テハ其ノ救ヒ

付き共親中少納言と世人
寡成るの故を以て右謝礼ふ及ぶ所なり成る頃後隨う
肥立ち仍中合わざる親と此の外半同村
こ同名荒組下百姓源家永こ病気の為
ゆえ文右又右衛門療治こ而快気ある極
貧こ而某礼も殺出来潤合或某指某ら
どる某書こ而已某又中合わざる第風気仕

一年来相変拘ら施行こ而第今此日こ何人こ義
ても壱人銭六文某麦壱升外のようこ候ら合て
右躰の源ら第中こ一日こ弐度ありの有こ
ふても暮も不被初ら某りの同様施行親風仕
格別ら上頭こ中祖こ候ら記ら是ら意
施行こ而親近村こ中こ某書こ而某数ら同也
成場右こ右様こ仕候ら小前こも様み源ら実

言成セラルヽ所ナリ

右又爲風聞御耳ニ入候上

辰
十月

毛田冨八郎
萩原要藏

同九巳年二月十三日戸田家女三厳古上ル

吉川榮藏
近藤和三郎
上野國村々ヘ帝立舎支配所
支配勤定格吉川榮藏
近藤和三郎
帝立

書面之通被仰渡承知奉畏候依而奥印差上候以上

年 月 日

柳生直賢
中川光導
石川友道
大久保周賢
小笠原二九郎

會支配所上野國下濕村天田吉之丞外壱人
参特成者左二件御褒美被仰渡候ニ付
望之者取調可差出旨申上候

右吉之丞儀年来不容易農業精勤
奇特之取扱仕候趣左ニ申上

右吉之丞儀
近傍和泉郡
上野國群馬郡下濕村
會
天田吉之丞

年先支配仕候支配所中之其節為出褒美苗字
子孫之二のお名前差許候旨被仰渡候ニ付譲栄儀
和泉郡支配ニ相成候も左ニ寅年右支配所中
六拾両先出年之割ニ利足貸附ニ而右利金
之内雑穀買入ニ而毎年ニ五拾俵ツゝの出米ニ而毎年小児
養育料ニ被下候ニ付村ニ而ハ貧窮百姓
先ニ子供ニ不限其ニ而遣候ニ付村ニ而ハ貧窮百姓

[illegible]
[illegible]
[illegible]

御先代　修斉公ノ御代ニ

沙汰ニ及ハス　御先代　修斉公ノ御代ニ

右金七拾両ハ

右女人立会支配所
同国同郡上新田
名主

令七

右金七拾両ハ相違ナク實正ニ請取者ニ候　右上新
田ノ儀ハ明和七寅年村方一統類焼ニ而家数多
ク焼失人命モ多
ク候ニ付天明二寅年洪水ニ而山崩焼砂降坂迫埋ニ而人数

お減ニ而百八拾ニ石余ノ除荒地ニ而ハ
ゆく末ニ而ハ何年先ニ支配仕候ニ而ハ
乱ニ成ル方ニ而七ツ詰ニ而百ニ拾ニ石
食代おくり而ハ金ニ拾ニ両ニ而ハ
荒地ニ而百六拾ニ石余ニ而ハ
此年貢ニ上納ニ仕候ニ付
源助ニ而ハ容易ニ乱ニ成ル不申

年季を限り追々起返り候姿ニ相成其外同出
與六郎村ゟ除荒地高弐石余村引ニ而年季を
限り起返し候而も右年限中捨置不申起し
返し出来不仕迚も右村ニ而起返し難及自力ニ
縋ニ付是又同人引請ニ而卯年ゟ来ル未年迄
五ヶ年之起し返し申年ゟ御年貢上納仕候様
是ハ當村世話仕ヶ候上且又凶年之節ハ夫食手

當ニ而も麦拾八石貸渡シ一躰村方取締小前一同
和熟候様取計遣し候故是迄御年貢上納筋も度々相立
皆無之未進滞相納年常実意ニ而丸半仕候程之者ニ
御座候ニ付格別之御沙汰を以御褒美被下候様
し極仕度旨申立候
右之通申立候ニ付評議仕候處又下瀧村名主儀ハ一躰
當方質素ニ而御年貢不参之未進滞無御納村々難澁之

ともの為ニ救ひ役儀篤実ニ相勤迄ニ村々荒地之場
所起し返し方引請自分入用を以入百姓いたし高
八拾壱石余之荒地起し返し又ハ起ニ返し手当并
小児養育料窮民救ひとして凡く之高金三百六拾両
余金を以貸し附利足ニ貸附致ス元金を居置年々割
之利足取立ニいたし右利金を以夫々手当之仕法相立
其外凶年之節ニ夫食不行届不足之手当来奇特

之元方仕法之儀去ル巳年先支配佐藤友五郎江窺之
之儀中立置候手当前取調次第文武之家名合澤村佐右衛門
儀奇特之取計いたし候ニ付苗字帯刀 御免被
渡置候も此段申上候

此儀前沢役所元支配所武州秩父郡名澤村
佐右衛門儀若村之外迄凶作之節飢渇之
ともの為ニ米金合力いたし候段出来年貢未進出

来被一及教像ハ之ものニ世利ニ而金子貸
渡年来奇特ニ取計いたし義ニ天ニ中
年九月ニ出寝ニ其才一代帯刀　御免苗字
はゝ孫迄ニお名字ニ而
右見合ニ而ニ苗字ニ教像も其才一代帯刀　御免苗字
子孫ニ相名字ニ而ニ　御免ニ而引ニ候同年ニ御褒
苗字ニ而引ニ子孫迄ニお名字ニ而ニ御免ニ而引ニ候中

渡ニ候ニ而ニ文ニ後栄ニ而ニ和ニ帰ニ支配ニ而ニ
書ニ通ニ而ニ候ニ而ニ又ニ困窮ニ而ニ者ニ而ニ
用水路ニ而ニ普請ニ而ニ荒ニ而ニ取建ニ而ニ
方ニ而ニ借ニ者ニ而ニ分ニ而ニ書ニ而ニ
ニ而ニ教像ニ而ニ　御免ニ而
新田金七ニ而ニ村ニ而ニ荒地ニ而ニ文ニ百姓ニ而ニ
地ニ而ニ記ニ一返ニ一ニ年ニ而ニ

来実意ニ世話仕村方ヲ始メ気遣モ宜参物成ヨリ
出来皆右金七ヶ両出寝共銀二枚半重ノ方ニモ有
出産ヨリ身動ニ候ハヽ次第

己
二月

同九己年二月廿七日ニ因家女忌服ヨリ

出勤ニ付
就渡国若松郡上小関村参特者出寝共
ヨリ後ニ付相伺ノ書付

書面之通ニ候間出寝共当年ヨリ
右之通銀拾枚ヲ半重ノ方ニ銀二枚ツヽ
ヲ半重ニ而弐人ヨリ銀二枚ツヽ
渡有之候渡ヲ取計

午ノ四月七日

御生母様
中川先御守
石川九郎左衛門
大久保内膳
小笠原二九郎

出勤之節酒飯渡世若松那上下関村
万ゟ悪花百姓代縁者ニ
ものたゟ出花ゟ者出勤之節取扱ゟ出勤之儀
出勤之方一同中ゟ皆ゟ免酒飯九ゟ中上ゟ

秋渡世若松那下関村
庄屋
万ゟ悪

右ゟ若松那ゟ秋渡世ゟ同ゟ者も小前ゟ附ゟ一軒

国窮ゟ協助ニ出花ゟ受ゟ外年他方不宜来
数亜候ゟ小前ゟ者ゟ安亜候ゟ者ゟ来数為賞詰村役
おゐゟ者ゟ右万ゟ悪ゟ安亜候ゟ者ゟ来数為賞詰村役
ゟ者ゟ支ゟ者ゟ而仕出ニ麦他取入退為取續ゟ
文政又同年六月中旬ゟ六月上旬迄打續ゟ大雨ゟ
川通堀所ゟ押切家数支ゟ食お迄押流ゟ而ゟ
凌業ゟ者多ゟ脱ニ同郡水穀講ゟ拾九ヶ村ゟ

籏支配所小預書ニて中受右万ニ悪兵同人別家
同村百姓利助兵ニ同村百姓代條蔵ニ中合銭弐
百疋ニて去秋新敷取入ニ而返ニ支食米三百ニ指石
余兵右組中ニ而去ル巳年ニ米ニ而受ニ者ニ
米百石組合ニ百ニ拾石余合力仕ニ米万ニ悪條
ニ之被代組中小前百姓取譲方ニ條左之世話
仕来ニ旨右組中村役人ニ連判書付ニ中ニ
小村ニ迄ニ九年ニ次年ニ而お礼ニ文一封銀壱
ニ俵ニ米敷十ニ俵ニ陽所ニ而賛暦ニ成年
まては金ニ両ニ米弐石相場ニ仕度ニ文右ニ
山作ニ而ニ両ニ文年米ニ俵ニ付ニ金ニ両ニ付ニ
相ニお渡り申ニ万ニ悪者祖父ニ而ニ條被ニ而ニ
仕組中救ニ為ニ金ニ両ニ米ニ石弐斗余ニ而ニ條救
弐ニ而ニ百俵有ニ而ニ天明三卯年山作ニ而又ニ両ニ付ニ

米壱俵ヲ上ケ候節父三右衛門ニ候若村ニ銭二百貫文
ヲ南仕組中ニテ米弐千俵ニ候付相場ノ次第ヲ以買
請ヲ外ニ金二百両ヲ利足ヲ以年賦ニ貸渡ヲ元ニ成
済金ニ於テハ右ヲ以テ御施行ヲ仕且又近年
出来ニ付為御上不関村ニ於テ七百俵ヲ為相囲且同ヲ
同組合ノ村々ニ於テ附ヲ取続為離散百姓ヲ
離散ニ至ラザル為ニ金ヲ拾両ヲ合力ヲ以テ御救ヲ仕
地ヲ米不仕候ヲ幸ニ荒地ヲ初ヲ上ケ源兵衛ニ於テ
ク初ヲ村同人ヲ為褒美ニ銀子ヲ為ニ且又七ヶ年
年成年同組ニ入村ニ不能ヲ為ニ年貢皆済ニ
百両ヲ合力仕ヲ上同年洪水ヲ及難儀ニ
米金合力仕ヲ御ヲ御ヲ
ニ又ヲ前同人ヲ銀子ヲ為取養ヲ
難ニ救ヲ附ク難儀仕ニ者又ヲ困窮ヲ老人小児ヲ

養仕為致候ニ付ては右組中村役人ニ一同申立

候ニ付ては右組中村役人ニ一同申立

右之者共ニ而去ル申ノ冰敷合力仕来候ニ付来ル申年来ル

右同組上関村
百姓代
俊右衛門

下関村
百姓
利助

家内共食事之押流シ候ニ付当日ヨリ渡為飯被下度旨

右之者共ニ而去ル申ノ冰敷合力仕来候ニ付来ル申年来ル

外ニ去ル申ノ出来ニ而高免之儀ニ付合力仕候ニ

又右組中村役人一同申立候ニ付右ノ通申立候ニ

ニ而追而救米ニ而御渡可被成旨

痛ニ候ニ付中上候様ニ申聞候ニ付其段申上候

訴訟ニ付右之通ニ候ニ付申上候

以上

国立公文書館
National Archives of Japan

道中之変事有之候而も無程場所不替ニ付　候得共右ニ付
御勘定例附ニ相成候節称文事有之今中ニ遣置候
来ル寄特筋ニ而も得と相糺て申くく元調ヲ仕置候
内茶文之（毎）去ル卯年以来も不絶寄特之元〆
仕向偏方之悪儀者輩共内ニ而見宜御座候上代く
寄特之元〆ニ而も仕来候儀ニ付右躰輩中免難有
之ニ而者一同力ニ仕ヲ先生ニ相執相違も無之相成右

躰之者山附遣野之場所ニ而見之候ニ而自然之村
方之困ニも及候儀ニ御座候而相成候儀ニ御座候招
別之御褒美ニ而も被成下候儀存候利助ニも相成之
御趣意ニ被仕度旨御勘定不附取扱ニ而御勘定組之
向ニ八ニ而御勘定方一同申渡候儀之評議仕候文茶
書中渡候而執ニ相違相渡中ニ而右方之悪儀も上
輩中小茶百姓ニ取續方ホ之儀存ヲ世話仕来同

人当祖父以来前条ニ通リ参勤ニ而年仕来
ニ〻卯年以来も不絶参勤ニ候ハゝ
万一御城若松ニ而も宿ニ代〻参勤ニ
而年仕来中発駕有之節ハ一同ニ仕来ニ
親右衛門ニ者山潤之通御ニ村方ニ而年仕来ニ猶
永以来村方ニ而ハ御ニ而ハ
寝ニ万一御ニ其方一代ニ而ハ
ニ

七ヶ条ニ而お右ニ有候ハゝ利助ニ被ニ
下ニ而ニ仕来ニ候ハゝ
ニ
ニ月

同九巳年同七月十九日松平伊豆守殿ゟ

松平右京亮殿江御届
隠岐國周吉郡中村百姓
書面何之通いよ〳〵為出候ニ付
第一番ニ着仕候ニ付
巳十月十七日

御先手組
中川飛騨守
石川左近将監
大久保周防
肥田十郎兵衛
小笠原二五郎

松平右京亮殿江御届
隠岐國周吉郡中村百姓

本籍士族平民ノ別
出産ノ年月日並ニ男女ノ別
出産ノ場所並ニ戸主トノ続柄

松平右膳当四拾七年
陸奥国国名郡中村
百姓
本多勇
同人妻
いよ

右本多勇儀当百七拾六石余所持仕来農業
ニ従事罷在候ニ付実成者ニ有之候ニ付同国元
仮村川出雲守様ニ帝大勉ニ人来候ニ付酒食ヲ以
いまし候ニ付格別ニ御出雲守様ニ年々貧
窮ニ付ものニ労リ参特ニ御出雲守様ニ
常ニ眼ニ枚差遣来窮民ニ施ス様ニ
当お尋ニ付先来書方相違ニ付実ニ

十年来旅〻いろ〻…
相互潤別限当却不…
救を請ふ者たお乳…
百二拾石大麦六拾石大麦百八拾石稼九百貫文…
有〻之外浪増類右…
死亡たる負数をお知…
当去る酒田窮…
支配たる寓実成者小前…
撰ひ潤を以て成丈け…
〻人数を見計ひ相…
当い者〻ゆゑのを…
多〻山年〻前を自分他徳も…
不着方成丈け談約い…
救ふ為来り旦天保三…

村々重立候百姓共ハ救合之儀申渡飢渇を為凌
前半左衛門儀居村之飢人ハ日々粥を煮為給其外他村
より袖乞ニ参り候もの之飢命をも労り是迄年来
半左衛門夫婦申合奇特之麦弐斗設し近村々迄も
飯施いたし国中之者共ニも手本ニ相成候程之儀ニ有之候
然右両人共追々及老衰候ニ付御褒美之儀申立
と取調候処去ル閏月半左衛門儀ハ病死仕候ニ付後家
いよ儀半左衛門同様婦人ニ珍敷奇特者ニ御座候間
御褒美之御沙汰御座候様仕度旨御預り所役人申
立奇特之儀ニ御座候間評議仕候処半左衛門存命ニ
御座候ハヽ夫婦之ものヘハ為御褒美銀拾枚ニ而も可
被下哉ニ候処半左衛門儀ハ病死仕候得共右申立之
趣ニ而ハ後家いよ儀婦人ニハ稀成奇特之儀ニ付
同人為御褒美銀七枚被下置候方ニも可有御座哉と

松平主殿次出張ノ節
肥後國天草郡富岡町ヘ村々ヘ參着者
書面何レモ通出張ノ節
年ヒ人ヘ着先ニ於テ
名出張ノ節ハ
年ヒ月廿七日

柳生主膳
中川元輔
石川久通
大久保内膳
小笠原二五郎

松平主殿次出張ノ節肥後國天草郡富岡町ヘ

七月

村〻ゟ者共参拾ゟ弐拾人位宛右御祈ゟ所役人中立ニ而先触

執九ニ十ニ云

松平主殿頭様御所
肥後國天草郡
富岡町庄屋
荒木市郎兵衛

同所渡ル
若ニ番
市兵衛

去年
旅七
村〻ゟ報ル
弐百八拾七人
内松京村
八ケ村
百姓共

右ハ肥後國天草郡ゟ嶮山野〻雑木ゟ生ル地ニ而
米穀ハ勿論麦ハ甲斐ハ一体田地少ゟ場所ニ付ニ而
ゟ百姓多〻ゟ者百姓共迄も連〻ゟ困窮ゟ随ひ倹食

お雪儀田畑水流地ニ
地不〻小作ヲ
困窮相募人気
願立ヲ
出奔モ有〻
唯今迄〻
先迄リ
大庄屋ヲ
扱方ニ
畑山林地ヲ
願済方ニ
中ニモ
自殺ニ
ヲ

中之(御)年々辰二月中何お濱(浜)より報(飛)
能登殿いまゝ百姓共お績方仕法お立返
入田畑永荒返(反)お取
ゆゑ百姓共文書面冨(富)
像右仕法書ゝ就動(勤)
田畑ゝ成連ゝ
為ゝ
貸借銀永年賦元引ゝ
は返済方ゝ
小作第一彼岸中今ゝ
右冨(富)田ゝ
お成ゆゑ田地ゝ
百姓ゝ為助力
とも相續方ゝ

く相及熟談仕候ニ付同町惣百姓共ゟ同書面差ニ而
外三人ゟ之もの共ゟ盛腹い出し一お續方ニ而
て相成筈ニ付ゟ候ニ付不残弁指ニ而取有之候ニ付
同前ニ而迚も村ゟ貸方ゟ分不残弁指い出し
差ニ而仕候ニ付ゟ候ニ付不残弁指い出し
村ゟ惣百姓共年賦拂方ゟ同迚ゟ弁指仕
百姓共勝手宜ニ相成候方ニ而一同ニ相談有之
ゟ通惣百姓共ゟ何ゟ義ニ付ゟ迚も能ニ差ニ而別紙ゟ通
大造ゟ歳ニ而弁指仕候ニ付ゟ候ニ付ゟ
相違ゟ出ニ而ニ付ゟ候ニ付ゟ
外ニ人ゟ者共ゟ実ニ初ゟ右ゟ通取ニ付右ニ随ひ
外惣百姓共ゟ一統ニ而仕候ニ付ゟ候ニ付ゟ
急ニ取ニ而ゟ候ニ付ゟ者共ニ而ゟ指別ゟ出ニ付
出ニ而ニ付ゟ候ニ付ゟ候ニ付ゟ

仕候哉市郎左衛門儀左座役お勤候ものとも
中右躰百姓共お續組中治り方ニ候哉疾ク
ゟ勤候ニ付自分儀ニ帯刀方ニ而指置候
跡目ニ云ニ帯指候儀及熟談兄續ニ帯刀之
ゟ者共儀も右中次ニ而組中ニ而も
始仕候筋ニ候間大造ニ相續方仕法不
及多年お懇意ニ指別参物ニ候ニ付
市郎左衛門儀ニ其身一代帯刀
弟三人ニ者共ニ苗字お名乗候
脩ニ而外跡目ニ右之人ニ
徽章被指方ニ候間退ク
ク候ニ付一統跡式百枚
且右ニ通跡目ニ
ゟ候ニ付此度

中治り方宜抔之抜方仕法之有之候ハ、
まて中尚右之外ニも右之通之抜方ニ而不抜人之儀も候ハ、
尚抔取扱候儀ニも候ハ、右抜人之内重抜候者
十命之儀ニ候ハ、銀拾枚右ニ准抜方ニ而
差支候節ハ野津道貫川端次郎兵衛
左源太川村勘右衛門小川忠兵衛中村小源太宮内
勝左源奥村加兵衛大内仁左衛門小川兼右衛門ニ銀
二枚宛大庄屋拾人ニ銀弐枚宛ニ而
差出申筈ニ候ハ、右之者共ニ銀弐枚ツ、
以上

午二月

右之通
御触有之候ハ、御先手之儀陣屋元町場ニ而ハ庄屋抜相勤候上
尚手ニ而ハ右抜方ニ而も仕方無之候ハ、抜相成候ハ、
御先手之儀ハ陣屋元町場ニ而ハ庄屋抜相勤候上
尚手ニ而ハ右抜方ニ而も仕方無之候ハ、抜相成候ハ、
御先手之儀ハ陣屋元町場ニ而ハ庄屋抜相勤候上
尚手ニ而ハ右抜方ニ而も仕方無之候ハ、抜相成候ハ、

△ 九ノ九

本文川口長左衛門儀御用ニ候間先達而書面ニ天草郡中治方仕法お立置候ニ付用向丸投ニ為申上右仕法ニ候ハヽ撰り出者ニ申付置候様ニと申上候

一 肥後國天草郡銀主貸借談捨方小前帳

松平左慶次
池部啓太郎

一 元銭弐百三貫文

富岡町居屋
荒木市郎衛

一 同弐百九拾三貫三百弐拾八文

同町井屋
若三郎

一 同三百八貫三百文

同町米屋
市左衛

一 同弐百八貫弐百九拾弐貫七百弐拾弐文

同町茶屋
基平

一 元禄弐子九百拾貫六百六拾弐文 同町茶屋 祐七
一 同子弐百貫文 福生木村庄屋 尾上文平
一 同七百貫文 門村庄屋方 卯兵衛
一 同三百弐拾貫文 同村 宇右衛
一 同三百拾七貫文 同村 初右衛
一 同三百拾二貫文 同村 源右衛
一 同七子弐拾弐貫八百六拾九文 富岩町大坂屋 基二郎

一 同子七百三拾八貫文 同町大和屋 吉兵衛
一 同三百六拾三貫六百三拾六文 同町米屋 半右衛
一 同三万三千三拾三貫百九拾七文 町山宮村庄屋 大谷林之恵
一 同九百七拾弐貫百九拾九文 小国原村庄屋 渡家
一 同六百九貫百七拾弐文 同村渡見 良右衛
一 同子九百六拾六貫三百弐拾三文 同村 文兵衛
一 同弐百六拾弐貫七百九拾六文 鬼沈村庄屋 池端清左衛

一 元禄七拾弐貫弐百七拾文
一 同弐拾貫文百弐拾文
一 同弐拾七貫九百六拾壱文
一 同拾九貫六百弐拾弐文
一 同百八拾六貫弐文
一 同弐拾貫百弐拾文
一 同百拾貫八百六拾文

同村 茂七
同村 若狭殿
同村 宇右
同村 順助
同村 徳右
同村 為右
同村 利七

一 同弐百弐拾八貫九百文
一 同弐百弐貫六百七拾弐文
一 同九拾八貫七百拾文
一 同文拾六貫弐百弐拾文
一 同弐拾弐貫文百弐拾弐文
一 同六百弐拾弐貫百文
一 同弐百文拾文貫弐百文

同村 作左衛
同村 与市右
同村 茂右
同村 惣次郎
同村 兵左衛
同村 茂六
同村 恵七

一 元禄二拾二貫八百拾文 同村 菓之助
一 同二拾九貫二百弐拾文 同村 菓荒
一 同二千九百八拾七貫百三拾七文 沙領村 庄兵衛
一 同百弐拾六貫文 佐沢津村 九平
一 同二拾九貫九百六拾文 同村 次右衛門
一 同二拾弐貫文 同村 祐七
一 同拾六貫八百七拾文 同村 丈平

一 同弐拾貫六百二拾文 同村 長兵衛
一 同二拾弐貫三百九拾文 同村 長兵衛
一 同八貫八百七拾文 同村 栄作
一 同三万弐千九百六拾七貫百二拾六文 沙領村 小山時之助
一 同弐千八百拾八貫百拾九文 同村 利兵衛
一 同八千七百二拾二貫九百九拾三文 同村 勝之丞
一 同八百六拾二貫九百文 同村 賀助

一 元銭弐百六拾七貫文
一 同弐百壱貫九百九拾八文
一 同弐百拾八貫九百九拾二文
一 同三百二拾弐貫九拾文
一 同六百拾七貫八百文
一 同百弐拾八貫弐百文
一 同七拾弐貫七百七拾文

同村 茂右衛門
同村 永蔵
同村 彦七
同村 文次郎
同村 宗右衛門
同村 平左衛門
同村 善次郎

一 同百弐拾六貫文
一 同百七拾九貫二百八拾弐文
一 同弐百九拾九貫弐百六拾文
一 同百九拾壱貫弐百文
一 同弐百拾七貫文
一 同六拾弐貫百六拾文
一 同弐拾八貫文

同村 留之助
同村 徳八郎
同村 順助
同村 喜六
同村 伴助
同村 和作
同村 伴七

一 元銭百弐拾弐貫七百七拾弐文　同村　表右衛門
一 同八拾弐貫弐百七拾弐文　同村　治右衛門
一 同弐拾貫文　同村　清右衛門
一 同弐拾弐貫六百文　同村　保助
一 同弐拾八貫八百弐拾文　同村　百松
一 同弐拾弐貫二百文　同村　辰之助
一 同弐拾貫百六拾文　同村　長右衛門

一 同百六拾六貫文　同村　多右衛門
一 同弐拾八貫六百弐拾弐文　同村　禮助
一 同拾貫文　同村　仁七
一 同七貫二百文　同村　傳七
一 同拾六貫七百文　同村　石見
一 同弐拾六貫七百六拾文　同村　清右衛門
一 同弐拾九貫六百弐拾文　同村　基松

一 元禄百弐貫七百七拾六文
一 同拾三貫七百弐拾弐文
一 同弐貫弐百八拾文
一 同拾弐貫三百八拾二文
一 同弐貫八百弐拾文
一 同拾三貫弐百文
一 同弐拾貫弐百弐拾三文

同村 源蔵
同村 去代八
同村 栄助
同村 代兵
同村 八兵
同村 作之丞
同村 大帝之蔵

一 同弐拾六貫二百七拾弐文
一 同拾弐貫八百六拾六文
一 同八貫六百弐拾文
一 同三貫九百文
一 同拾九貫弐百三拾七文
一 同八貫弐百八拾三文
一 同拾貫八百八拾七文

同村 久米兵
同村 富助
同村 良助
同村 三大帝
同村 去代松
同村 作平次
同村 安大帝

一 元禄七貫三拾文
一 同二貫八百文
一 同三貫弐百八拾六文
一 同拾六貫百八拾文
一 同拾七貫九百九拾文
一 同弐貫八百六拾文
一 同拾弐貫七百二拾文

同村 関右衛門
同村 伊右衛門
同村 基九郎
同村 増右衛門
同村 次郎兵衛
同村 政七
同村 権左衛門

一 同拾八貫六百八拾文
一 同拾貫弐百文
一 同六拾七貫八百八拾文
一 同三万八百二拾九貫六百七拾文
一 同九拾六貫六百六拾文
一 同二百八拾七貫文
一 同七拾八貫文

同村 太郎兵衛
同村 定八
同村 物平
牛淵村 助七
同村 利平次
同村 市兵衛
久玉村 基兵

一 元銭七百拾貫二拾文
一 同弐百七拾貫二百八拾八文
一 同弐百九拾弐貫二百二拾文
一 同弐百九拾貫二百六拾壱文
一 同弐百九拾弐貫八拾二文
一 同弐百八貫百弐拾文
一 同弐百九貫二百八拾文

一 同二拾二貫八百弐拾文
一 同弐拾壱貫八百文拾文
一 同弐百弐拾二貫八百六文
一 同九百拾弐貫拾九文
一 同二百八貫弐百九文
一 同六拾弐貫七百弐拾弐文
一 同六貫百拾八文

飛浦村庄屋 倉田武左衛門
隣村庄屋 義田文右
隣村 儀左衛門
同村 伊代助
井手村 表弥治
同村 就右衛門
隣村 八十七

井手村 那弥治
同村 庄平
浦村 信右衛門
同村 九郎兵衛
同村 和右衛門
同村 茂弥治
同村 兵右衛門

一 元銭弐貫七百文
一 同八拾七貫百弐拾九文
一 同百弐拾七貫七百八拾文
一 同七拾貫八百文
一 同弐拾弐貫八百文
一 同弐拾弐貫八百文
一 同七拾貫九百文

同村 祐助
同村 繁弥
同村 仁左衛門
同村 民平治
同村 惣次郎
同村 重弥
同村 平内

一 同壱貫九百文
一 同弐拾弐貫九百文
一 同弐拾弐貫八百弐拾六文
一 同弐拾七貫八百文
一 同百弐拾六貫七百弐拾文
一 同百六拾弐貫八百六拾弐文
一 同八拾六貫弐百弐拾文

同村 茂内
同村 俊平
平戸村庄屋 安永栄意
同村 源蔵
津留村 云卓
大河村 有助
同村 清蔵

一 元祿二拾壱貫二百文拾壱文

一 同三拾壱貫八百文

一 同文拾七貫文

一 同弐拾貫二百二拾文

一 同文拾文貫百文

一 同六拾九貫八百九拾文

一 同弐拾文貫文百七拾三文

同村 助兵衛

同村 源三郎

同村 茂三郎

同村 茂右衛門

同村 吉郎右衛門

同村 銀右衛門

同村 茂助

一 同六貫六百文拾文

一 同百九拾七貫三百拾壱文

一 同七拾九貫二百六拾三文

一 同三百文拾二貫文拾文

一 同文拾文貫三百八拾文

一 同九貫文百文

一 同百三拾三貫三百六拾六文

同村 材兵衛

同村 兵之恵

同村 万助

同村 右助

同村 伴八

同村 甚右衛門

同村 吉之丞

一 元銭弐拾六貫弐百六文
一 同弐百九拾貫弐百拾文
一 同二百九拾弐貫六百八拾六文
一 同弐百九拾六貫百六拾弐文
一 同弐百九百拾貫八百二拾九文
一 同七拾弐貫弐拾文
一 同弐百六百三拾八貫六百二拾弐文

同村 作之丞
同村 吉次郎
同村 和助
当渡村六屋 上田源作
同村 吉郎太
同村 吉右衛門
同村 悦右衛門

一 同六百貫弐百拾文
一 同弐拾三貫弐百拾文
一 同弐拾三貫弐百拾文
一 同拾弐貫八百拾文
一 同拾三貫百弐拾弐文
一 同弐百三貫八百九拾文
一 同弐百七百八拾三貫文

同村 新右衛門
同村 清作
同村 久次郎
同村 伊作
同村 政吉
同村 伊三郎
文田村 恒之助

一 元禄弐年ゟ九拾弐貫八拾文　　同村　御左衛門
一 同弐拾貫弐百弐拾文　　同村　庄吉
一 同ゟ弐百八拾弐貫八百弐拾文　　同村　吉左衛門
一 同弐拾七貫八百文　　同村　伴左衛門
一 同弐百九拾貫八百弐拾弐文　　立系村庄屋源吉
一 同弐百九拾八貫弐百文　　同村　権左衛門
一 同弐拾弐貫弐百弐拾文　　同村　元平

一 同拾九貫文　　同村　次助
一 同拾八貫八百拾文　　同村　源平
一 同六拾弐貫七百文　　同村　庄吉
一 同ゟ九百弐拾六貫弐拾文　　下河内村　代八
一 同弐百弐拾七貫弐百七拾六文　　大潟ゟ村　兼左衛門
一 同八百九拾八貫八百八拾弐文　　同村　武左衛門
一 同ゟ弐拾弐貫六百八拾文　　同村　権蔵

一 元銭弐千八百八貫八百弐文
一 同八百七拾七貫二百六拾弐文
一 同九百九拾九貫九百九拾文
一 同八百九拾貫九百文
一 同百七貫八百九拾七文
一 同八拾貫七百二拾文
一 同弐百八拾九貫八百九拾七文

文地茶村居屋
中西兎右衛
同村居屋敷預ケ
小云蔵
同村
吉右衛
同村
和吉
同村
重平次
同村
倉吉
同村
栄云蔵

一 同七拾六貫文
一 同百拾三貫百六拾七文
一 同三拾九貫百文
一 同拾九貫弐百文
一 同拾六貫文
一 同九貫弐百文
一 同九貫八百文

同村
良右衛
同村
宇云蔵
同村
平云蔵
同村
甘蔵
同村
平右衛
同村
平七
同村
義吉

一 元禄三貫八百九拾文
一 同二貫六百文
一 同七拾八貫七百文
一 同八拾弐貫文
一 同二拾八貫文
一 同弐拾貫百文
一 同六百拾八貫弐百文

同村 忠七
同村 林助
同村 庄右衛
柳原村 庄右衛
同村 織平
同村 和助
井手村 市郎兵衛

一 同三拾貫八百文
一 同六拾三貫七百八拾文
一 同六拾八貫百七拾文
一 同八拾弐貫八拾文
一 同三拾二貫二百弐拾文
一 同百七拾七貫弐百七拾文
一 同百三拾三貫三百文

大浦村 氏右衛
同村 善之助
同村 市右衛
同村 利作
同村 吉右衛
同村 外右衛
同村 為右衛

一 元禄百六拾文貫二百文
一 同百文拾貫八百六拾文
一 同弐拾六貫七百九拾文
一 同弐拾文貫八百三拾文
一 同百六拾七貫文百八拾文
一 同六拾貫八百文
一 同二拾八貫九百文拾文

同村 勇左衛
同村 武代右衛
同村 松右衛
同村 清左衛
同村 勝左衛
同村 勝左衛
同村 八左衛

一 同文拾二貫弐百文
一 同八拾弐貫文
一 同百八拾文貫文
一 同百六貫七拾文
一 同百二拾貫文
一 同文拾弐貫六百八拾文
一 同八拾七貫二百文

同村 政七
須子村 長右衛
同村 治左衛
同村 民左衛
同村 武代右衛
同村 半左衛
同村 熊左衛

一 元祿二百八拾貫文
一 同八拾八貫文
一 同八拾弐貫文
一 同六拾弐貫文
一 同弐拾八貫文
一 同六拾壱貫文
一 同百拾八貫文

同村 義次衛
同村 良右衛
同村 武右衛
同村 恒 [illegible]
同村 第七
同村 伴右衛
同村 長右衛

一 同八百九貫弐拾文
一 同七百九貫六百八拾文
一 同六百八拾弐貫八百文
一 同八百拾弐貫文
一 同弐百八貫文
一 同弐百拾八貫八百文
一 同百弐貫八百文

東湊村 儀助
同村 市右衛
同村 源右衛
同村 種右衛
同村 吉兵衛
同村 吏右衛
同村 種八

一 元銭六拾七貫八百二拾文
一 同弐千八百二拾六貫八百八拾二文
一 同八百七貫三百八拾弐文
一 同八百七拾壱貫二百二拾文
一 同弐百八拾八貫三百文
一 同百三拾弐貫九百七拾文
一 同百弐拾三貫六百八拾七文

同村 市兵衛
工津浦村 宅右衛門
同村 銀蔵
同村 吉右衛門
同村 東作
下津浦村 徳右衛門
同村 仁兵衛

一 同八拾六貫六百弐拾文
一 同三百九拾貫八百七拾壱文
一 同百拾弐貫七拾七文
一 同八拾七貫文
一 同百九貫六百二拾文
　　但小貸ニ分
一 同弐百三拾七貫三百文
一 同二百拾三貫九百六文

同村 菜助
同村 徳八郎
湯船原村 忠蔵
同村 音右衛門
同村 百姓代
平原村 庄屋兼帰農 九郎兵衛
牛津村 磯十郎

一 元禄六拾三貫二百二拾六文
一 同八拾三貫三百六拾六文 同村 久米助
一 同拾六貫百六拾文 同村 虎之助
一 同弐千九百九拾六貫百拾七文 下浦村 兎右衛門
一 同二百八拾貫六百文 上村 福八
一 同弐百八拾六貫二百拾八文 同村 兎助
一 同三百七拾六貫拾二文 同村 作平治

一 同二百三拾弐貫七拾文 同村 丈右衛門
一 同弐百弐拾八貫百弐拾文 同村 良七
一 同二百八拾貫六拾文 同村 忠蔵
一 同九拾六貫六百拾文 同村 栄助
一 同二拾八貫八拾文 同村 用平
一 同二拾八貫拾六文 同村 安平
一 同九拾六貫百弐拾文 同村 吉右衛門

一 元禄一二百八拾貫六文
一 同 六拾七貫六百拾 文
一 同 六拾弐貫 百文
一 同 六拾弐貫 百拾八文
一 同 百拾貫弐百文
一 同 弐百貫文余
　　是ハ小貸ニ入分
一 同 百九拾九貫 百文

同村　丈七
同村　基左衛
同村　源右衛
下浦村　九左衛
同村　次右衛
同村ヶ郷　百姓七
少之村　茂八

一 同 百八拾六貫弐百文
一 同 九拾 貫弐百文
一 同 九拾 貫 文
一 同 百拾弐貫 文
一 同 六拾六貫 百文
一 同弐百弐拾七貫 文
一 同七百六拾貫文余
　　是ハ小貸ニ入分

同村　九右衛
同村　弥右衛
同村　助右衛
同村　富助
同村　長右衛
同村　平右衛
同村　百姓七

一 元禄二百八拾二貫七百六拾八文　中村六蔵　浦女沢弥勝
一 同二百七拾七貫九百弐拾六文　同村　銀左衛門
一 同二百七拾六貫八百六拾八文　同村　卯弥勝
一 同二百弐拾六貫八百九拾弐文　同村　百姓九
　　皆八小貸ニ分
一 同二百七拾貫文　阿村　伴弥勝
一 同九百八拾七貫七百文　同村　泳平
一 同弐百八貫文　同村　百姓九
　　皆八小貸ニ分

一 同弐百二拾八貫七拾文　会津村　有芳
一 同百九貫弐百八拾文　同村　平吉
一 同百六拾七貫九百拾八文　同村　基助
一 同百拾貫六百九拾三文　同村　栄蔵
一 同七拾七貫三百三拾文　同村　伊吉
一 同百八拾九貫八拾文　今泉村　百姓九
　　皆八小貸ニ分
一 同八百八拾八貫六百二拾九文　勘弥勝

一 元銭二百九拾貫八百八拾文　同村　恒右衛
一 同百九拾六貫六百八拾文　同村　去熱次
一 同九拾六貫二百二拾文　同村　市右衛
一 同百九拾貫六拾六文　同村　七右衛
一 同百九拾二貫八百文　同村　茂平
一 同弐百八拾三貫七百八拾文　同村　百姓代
　　已八小貸ニ分
一 同参百三貫八百七文　御南村　徳右衛

一 同参百九拾二貫百三拾二文　同村　源右衛
一 同百拾三貫八百八拾文　同村　百姓代
　　已八小貸ニ分
一 同九百八拾三貫八百二拾文　教良木村　治兵衛
一 同七百八拾九貫弐百文　同村　小右衛
一 同七百三拾八貫二百文　同村　倉右衛
一 同九拾八貫二拾文　同村　与右衛
一 同百八貫弐百文　同村　忠右衛

一 元銭百八貫二百弐拾文　同村　惣九郎
一 同九百八拾弐貫文　同村　百姓九
　　但八小銭ニ〆分
一 同八百七拾貫文　同北の内村　徳左衛門

元銭〆拾八万千百八拾壱貫二百二拾二文
人数弐百九拾弐人

同十年年正月十七日松平伊賀守殿ゟ上ル

義兵ニ而助成被仰付候ニ付、信州地科郡小宮村ニ而

書面小宮村役人ゟ申出候ニ付、
第四之不伺之通ニ而差支無之哉
午ノ八月廿六日

柳生主膳正
中川飛騨守
石川左近将監
大久保内膳
小笠原二位殿

義兵ニ而助成被仰付候ニ付、信州地科郡小宮

役人共参特ニ取次仕候ニ付褒美ニ被
下候旨ニ而銀弐枚宛ニ中上ル

義兵ニ而助代官所
信州諏訪郡下ノ倉宿
名主
忠右衛門
年寄
十郎右衛門
同
伴右衛門
同
要右衛門

右下ノ倉宿ニ而ハ百八拾石余ニ付褒美文ノ曲

同
俊右衛門
同
俊右衛門
同断
茂兵衛
同
治右衛門
永昌寺
泳巳和尚
百姓代
半七

川附ニ而逃ニ高弐百石余ニ川欠換地ニ而来地不
足ニ相成困窮ニ付別而天明二卯年出郷ニ而来
永増困窮ニ付願ニ而御収納ニ十ヶ年貢納被仰付
収納ニ而ハ無之ニ十ヶ年貢皆済仕候ニ付先ツ
離散ニ而百姓ニ而来ニ付御百姓ニ而ハ無之ニ付
中合ニ而相続ニ来申ニ先出助合ニ而元禄ニ而
窮ニ而立直ニ付ニも御見不申ニ者ニ而ニ小前

百姓ニ而ニ貧ニ候ニ付ニ農業ニ而ハ中々ニ御取続ニ
ニ割農業ニ而精ニ付ニ而ニ小国ニ而ニ還ニ付ニ而ニ御顧ニ
難ニ而ニ代官ニ而ニ食ニ合ニ仕ニ而中ニ数ニ而
小前ニ者ニ而ニ流出ニ而ニ困ニ而ニ有ニ之ニ
お互ニ而ニ助ニ合ニ而ニ同和ニ而ニ致ニ而ニ
農業ニ而ニ励ニ而ニ他ニ而ニ見ニ合ニ而ニ指別
ニ而ニ来ニ而ニ百石ニ而ニ換地ニ而ニ今ニ而ニ年ニ而ニ

之候處十六七ケ年以前迄ハ宿内度々出火ニ而難儀仕
候ニ付近年番小屋を建毎夜宿役人共壱人ツヽ相詰
無油断為見廻候ニ付一切出火無御座候伝馬役相勤候
困窮之者共ニ馬代として金二両ツヽ右役人共方
見習ひ無利足五ケ年又ハ七ケ年賦貸渡為相勤
御役人小前迄風儀宜宿内取締行届当時迄
道繕等も無之旅人も安心止宿仕候ニ付旨ニ且前

書之通多分之川欠抜地ニ而以前ハ甚困窮ニ候
処近年者当時為村惣人気も立直公事出入ケ間敷
儀無之以年貢納方諸日限通り御無滞相納候
候今右役人共取計方宜実意之者精仕候故之儀ニ御座
候ニ付右ニ而寄候儀ニ御座候ニ付御褒美被下置候様
仕度候之助中立候得共評議仕候処右之者
共も役儀相勤候もの之ともニ見中村方相續宿内

兎角帰方等存ぜざる様ニ心掛ケ先ヲ而り御救ニ
来遣し荒地も亦返し一国窮之至り村掛ニ候も
頂ニ御救ニ参物ニ候ハヽ御守衛ニ者大ニ窮究
ニ而御治も出来ニ而ハ自然ニ外村ニ而ハ之ニ
成候ニ而ハ実ニ容易ニ無之人ニ者大ニ
為ニ窮究ニ候ハヽ第一重小前百姓ニ候も村役
人中教ニ而ハ農業ニ外御救ニ参物ニ候ハヽ

窮究ニ而ハ御救ニ而ハ之ニ而ハ実ニ

壮候事ニ候ハヽ

午ニ月

同十年年六月廿日松平伊豆守殿ヘ

早川八郎左衛門出代官所
備中国実村参拾者共

書面之国々窺之為
出役夫銀指枚之内
弐貫弐百目
午七月朔日

御先手脇
石川左近将監
大久保内膳
小笠原二立助

早川八郎左衛門出代官所備中国実村参拾

その旨寛永二酉年中より分ニ為調ル銀左ニ中ニ

右之通御国大庭両ヶ条郡御中御国御役替之川上郡

御中御国御役実村
百姓
太田正蔵
年三十七歳

同村
百姓
吉田平蔵
年三十一歳

一ニ指ヶ村ヶ様御国窮村方ニ而ハ寛永十四丑年
旱魃ニ而諸作枯死仕別而畑方損毛強ク
ニ年疫病流行家並ニ死失人も多ク
村ヶニ而ハ三ヶ一ニ当ル所も有之ヶ候年畑方枯
立ニ而ハ無有之ヶ候年ニ而ハ無之ヶ候年貢上納方も
勿論夫食ニ差支難渋ニ付預米ニ而ハ預米ニ分村ヶ貸出
候又ハ御扶持ニ而ハ御扶持ニ而ハ御救小前

貸渡置申候右退転年来請作村々難儀之段子度
見候ニ付其人親代々連々致置金弐百両ヲ以為助
力仕度旨申出候ニ付右之趣承届御貸金弐百
両役所ゟ為見出国家村々吟味仕畑方検見毛更
食扶持別紙書付之通割渡為見続ゟ自立右其人
とも元来同家之内先年分家いたし退転之高百
六拾弐石年来請作之高六拾石所持ニ而無之以和又

子年ゟ拾ヶ年来去迄郡中百姓共発立ニ而命退転
親之代ゟ取斗方宜奇特之事ニ付為御褒美銀
拾枚并其者一代帯刀　御免苗字も永々
可相免旨被　仰付年来請親係之助成をも
安永六酉年郡中困窮之もの江手当荒地不少
作年貢越百姓無納ニ相成候分銀子差出上納為
仕其外奇特之儀共有之ニ付為御褒美銀拾枚

父不重ニ至リ一代帯刀　御免苗字ヲ称シ候相
名家名ヲ　修身ヲ以奉公ニ出ル因年右ニ及候ハヽ助
女人不拘ヽ小別懐式ヲ以三百米覚上ヲ又奇特
ヲ為ニ候ハヽ銀指枚究ヲ以テ賞ヲ与ヘ
上ニ而ヲ以筋ニ此ヲ成候人撰ヲ百姓為ニ候ヲ
お精ヲ相励ヲ第ヽ親ヲ孝ヲ
村ヽ早損ヲ以被成ヽ被
ヶ枝ヽ附命ヲ以テ中合助力ヲ会ヲ被中出ル旨
中ヽ出ヲ以通村ヽ呼出シヽ右女人平常ヽ行跡ヲ
ヲ以ヲ書ヲ写ヲ女候ヲ出ヲ制法大切ニ守ヲ実
被成者ヽ中一同中立ヲ特ヽ候ヲ出ヲ
候ヽ出ヲ親ニ孝ヲ伴ヽ助同役女人ヲ
御免ヲ　修身ヲ以仕度旨ヲ
相出ヲ文右ニ条年ヲ候ヽ通親ヲ孝特

[illegible]苗字御免之儀ニ付願書
[illegible]格別之儀ニ付旧例ニ不拘
来ル[illegible]
年中出[illegible]
仕[illegible]
[illegible]
[illegible]

とも三ヶ年一代賞力　御免
候ニ別紙物方損毛并支食米御免
相添御届申候以上

午ノ月

元

当二百三拾七石七斗九合
物方損毛米高
一銀七百三拾六匁六分九厘

美作国大庭郡
上河内村
西谷

同断

支食代米高
一銀弐百九拾七匁六分三厘

当二百拾石八斗六合
畑方損毛引高
一 銀七百三拾六匁壱分壱厘 同国同郡 同村東谷下分

支配代官
一 銀弐百弐拾六匁弐分 同所

当弐百九拾六石八斗壱升九合
畑方損毛引高
一 銀弐百九拾匁八分七厘 同村東谷上分

当弐百二石九斗壱升七合
畑方損毛引高
一 銀六百九拾九匁二分八厘 同村中村

当八百九石三斗壱升壱合
畑方損毛引高
一 銀三百弐拾四匁弐分七厘 同村下村上分

当三百拾六石七斗二合
畑方損毛引高
一 銀三百七拾六匁弐分三厘 同村下村下分

当三百拾六石七斗二合
畑方損毛引高
一 銀三拾四匁八分三厘 同村当免分

当八百八拾七石三斗八合
畑方損毛引高
一 銀八百八拾六匁六分九厘 同国同郡 湯屋村

当弐百七拾六石弐斗八合
物方損毛引高
一銀弐百弐拾弐匁九分弐厘

同国同郡
多田村

当弐百九拾弐石八斗壱升八合
物方損毛引高
一銀八百八拾六匁弐分七厘

同国同郡
倉谷村

当八百九拾九石六斗七升弐合
物方損毛引高
一銀壱貫百六拾目

同国同郡
久世村山方

当八百拾九石六斗八升弐合
物方損毛引高
一銀弐百九拾八匁壱分

同国同郡
下河内村下分

当弐百弐拾九石七斗三升六合
物方損毛引高
一銀二百拾八匁弐分二厚

同村上分

当七百七石壱斗九升八合
物方損毛引高
一銀八百八拾目

同国同郡
三津河原村
中原分

当弐百弐拾弐石八升二合
物方損毛引高
一銀八百八拾目

同国同郡
山久世村

当八百七石二斗弐合
物方損毛引高
一銀八百八拾目

同国同郡
楼村百谷

高百八拾二石九斗六合
畑方換毛多高
一 銀百六匁六分八厘

支食代多高
一 銀百二拾二匁九分八厘

同国同郡 楪村東谷 神上ル分共

同断

高八百弐石七斗二合
畑方換毛多高
一 銀百匁拾八匁

支食代多高
一 銀百六拾八匁二分

同国同郡 日木村 大国主分共

同断

高三百弐拾石八斗六合
畑方換毛多高
一 銀三百拾八匁六分三厘

支食代多高
一 銀八百八拾八匁壱分弐厘

高九拾九石壱斗二升弐合
畑方換毛多高
一 銀百八拾二匁六分九厘

支食代多高
一 銀八拾七匁

同国西之条郡 羽出村

同断

同国同郡 吐江野村

同断

弐百弐拾弐歩半壱分六合
畑方横七間
一 銀百七拾二匁七厘

支食代弐歩
一 銀弐百拾匁弐分三厘

弐百弐拾壱歩壱分七合
畑方横七間
一 銀弐百七拾弐匁二分壱厘

支食代弐歩
一 銀二百八拾六匁七分

同国同郡 奥津村

同所

同国同郡 奥津川西村

同所

弐百弐拾弐歩半六分六合
畑方横七間
一 銀百六拾四匁二分七厘

支食代弐歩
一 銀弐百拾七匁八分

弐百弐拾八歩半二分七合弐夕
畑方横七間
一 銀二百三匁六分

弐百二拾八歩半弐分九合壱夕
畑方横七間
一 銀二百七拾七匁

同国同郡 長岩村

同所

備中国阿賀郡 布瀬村 上組

同村下組

高百拾石三斗三合八勺
畑方撰毛多出
一銀弐百七拾弐匁三分壱厘

同村
宗貞組

高弐百弐拾七石七斗壱合八勺
畑方検毛多出
一銀弐百拾七匁六分

同国同郡
宮地村

高弐百弐拾壱石八斗九合八勺
畑方検毛多出
一銀弐百六拾壱匁

同国同郡
下谷村

高九百拾石九斗三合九勺
畑方撰毛多出
一銀弐百七拾弐匁壱分

同国同郡
佐伏村

高六百六拾六石七斗壱合八勺
畑方撰毛多出
一銀弐百拾弐匁壱分二厘

同国同郡
赤馬村

支配代官
一銀八百八拾壱匁壱分六厘

同所

高三百九拾六石六斗三合九勺
畑方撰毛多出
一銀弐百拾四匁七分弐厘

同国同郡
宇山村

支配代官
一銀八百六拾四匁八分

同所

高七百弐拾石弐斗九升壱合二夕
畑方換毛多出

一 銀壱貫弐百弐拾目八分壱厘　同国同郡　土橋村

高七百八拾八石二斗六升二合壱夕
畑方換毛多出

一 銀壱貫百弐拾七匁壱分八厘　同国同郡　井尾村　宗茂組

高七百八拾七石弐斗壱升壱合六夕
畑方換毛多出

一 銀百拾六匁　同村元組合

高二百六拾九石九斗弐升壱合六夕
畑方換毛多出

一 銀弐百二匁　同国智多郡　光通村

高六百弐拾二石九斗九升壱合九夕
畑方換毛多出

一 銀九百拾六匁弐分　同国同郡　花木村

高六百八拾壱石
畑方換毛多出

一 銀弐百六拾九匁八分　同国同郡　大竹村

高弐百弐拾壱石八斗九合
畑方損毛多出

一 銀二百拾九匁八分八厘　同国同郡　下大野新村

高八百八拾弐石弐斗壱合
畑方換毛多出

一 銀弐百弐拾八匁七分九厘　同国川上郡　西山村

今般百五拾石宛年七合
畑方換毛年内

一銀三百弐拾二匁宛分壱石

金弐百両

備中国
二拾ヶ村

同国同郡
小泉村

右ハ私代官所英備中国二拾ヶ村ゟ徴ル処
去ル丑年旱損ニ付国窮仕文食救被遣候ニ付
猶ゝ中立金ヲ以備中国所ゟ実村百姓ゟ田ニ差

今回年ゟ清兵衛ゟ右村ゟ畑方換毛ヲ以文食代銀ヲ
多端ニ付助合金之百両差出ニ付村限別紙仕訳書面
ゟ通ニ而差出ニ付

午二月

早川八郎左衛門

寛政十年辛七月廿一日御家女一ノ上

岸本泳二帰出代官所奥列信文殺害ノ上村方ノ
新発娘又ハ若イ仕出娘村役人ヲ中ニ入ノ方相

仍為證添之爲書狀如件可
差支候也庄屋ゟ右場所江相廻ル旨觸受次第
直ニ相仕度事勿論候ニ付中上候以上

午七月

代官
岸本添之助殿

柳生主膳

居村添之助代官所
奥州伊達郡掛上村
百姓
彰義
当午七十六歳
娘
よし
同江十歳

右新荒候高壱石二斗余所持仕家内三人者
此度御改ニ付百姓ニ成候ニ付而ハ
成丈ケ村方ニ而奥羽筋村方ニ
壱軒ニ付一ヶ法度筋ニ而ハ
よろしく取計候様
と被仰渡候ニ付而ハ大切ニ
仕候ニ付而ハ家内之者
ニ而ハ
何事ニよらず次第ニ
不申万事ニ実ニ孝行仕候ニ付
被遣候ニ付右村

同
くに
同二十歳

家内之者
ニ而ハ
何事ニよらず次第ニ
不申万事ニ実ニ孝行仕候ニ付
被遣候ニ付右村
役人ニ而ハ平日睦敷渡世
仕渡世ニ而ハ老人ニ而ハ
夜中ニ而ハ湯ニ而ハ
右小使無之候ニ付
何事ニよらず次第ニ
不申万事ニ実ニ孝行仕候ニ付
被遣候ニ付右村
役人ニ而ハ平日睦敷渡世
仕渡世ニ而ハ老人ニ而ハ
夜中ニ而ハ湯ニ而ハ
右小使無之候ニ付

役人共新荒組合之者共中出又右村役中之
は当年正月初旬ニ家業旅人取扱
中ニ而も相用事有之ニ付表之他基迄
通行着ニ而文当村栗原新荒与申者不在ニ付相休
家内之様子見請ニ而文女人之娘ニ而親ニ者
と相見ニ来ル人之娘ニ而文当村栗原振旦ニ而栗振之儀
ニ付ツ紙ニ包持参ニ而佛前ニ備ル文ニ而
親之者ニ而文無之別娘ニ而文有之ニ付娘ニ而
新荒ニ而文当村栗原振旦ニ而栗振之儀
言ニ而私娘中ニ而文有之ニ付娘ニ而文老人相
間ニ而文当村栗原振旦ニ而栗振之儀
都而不届ニ而文有之ニ付娘ニ而文老人相
也ニ而文無之ニ付娘ニ而文老人相
ル娘ニ而言ニ而何ニ而文有之ニ付娘ニ而文老人相

名主市兵衛ゟ右両人ゟ暇平日老人ゟ孝行ゟ之取
候ゟ一ヶ村ゟ之孝義ゟ及取扱候ゟ何ゟ品ゟ当
出役所ゟ申立候ゟ相違ゟ候ゟ及取不申候右旗人ゟ
相尋候申上候

右ゟ私出役所奥ゟ伺信支配所上村百姓新兵衛
同人娘両人孝行ゟ報書面ゟ通右村役人中ゟ申
越又ゟ附箋ゟ代官ゟ見出ゟ参村ゟ風聞ゟ取合ゟ如何ゟ
孝ゟ報及取扱ゟ申出候ゟ帯ゟ孝
ゟ報ゟ相違ゟ申出候ゟ奥ゟ伺信支配ゟ
人気風俗ゟ不宜場所ゟ出候ゟ右様孝ゟ
有ゟ間ゟ内ゟ取扱ゟ出候ゟ相違ゟ出候ゟ
重ゟ報仕候ゟ様ゟ御ゟ中上候ゟ

午六月

[illegible]

同十年辛七月廿一日戸田家女亜殿ヒ上ル

野村檜乃助代官所
丹後國杉谷村孝治郎

書面之娘儀幼年ニ而指引等茂
不仕候ニ付此度一日差之合宛一生ニ
致候様申聞候ニ付此段御届申上候
以上
午八月十七日

御生色膳

野村檜乃助代官所
丹後國熊野郡杉谷村百姓

二郎助娘を貰養女と孝義之儀相勿論候村役人共
中お以て書付差出候間別紙入
置候条、一応之者と相違之儀無之様仕度
奉願候以上

午六月

野村檀之郎代官
柳生主膳

野村檀之郎代官前
丹波国船野村百姓
二郎助後家
さよ
午六十二歳

右之者共分ニ而相互ニ取相候ニ付而ハ村役人ニ而
取扱ニ申者有之候ニ付而ハ支配者村内不作ニ而
多人員ニ而渡世ニ差支候ニ付一則右之通ニ而
取扱候ニ女房ニ有之候ハヽ取扱人ニ而ハ
死仕舞ニ付ニ而ハ差人者小作又ハ日雇稼

同人娘
午九歳

ニ而ハ日を送り申ニ付右取扱ニ申
りの有之ニ付而ハ但馬国豊岡町服治之
と申者方ニ申子ニ而ニ相成年来相勤弐ケ年
祖次郎右豊岡町ニ別宅致し女子弐人ニ而住
得た兄取扱ニ及ひ候ニ付一同村ニ
村ニ引越候ニ親類村役人ニ而取扱ニ
女房ニ致ニ而ハ差支難儀ニ

師娘と女房方と先亡三帰助と妹娘と右之
云ふ子年村谷村に死別離縁く女房と但馬国城
崎郡石合地村に再縁仕候処又々三帰助娘猶刀
寄さよ娘娘妻と取親候た々達而勧候処
三帰助訳合不仕旁二人組く者近所之者取
申勧候ゟ分二合家族拵く候へ共一向に成り不申
二ヶ年以前辰年眼病相煩盲目に成三帰助娘ハ去
乙巳月病死仕ゟ分盲目くさよと当年九歳ゟ相
成ル右娘と私と両人ゟ渡世難成必至く困窮先達
而ゟ娘初年ゟ取続仕候へ共乳成者ゟ村中ゟ
通村くゟ貰請娘ゟ娘ゟ娘ゟ娘ゟ娘ゟ
外業事ゟ附少成共ゟ中分ゟ不宜大切ゟ娘抱
仕候ゟ娘ゟ盲目ゟ相成ゟ三帰助死去以来
別而ゟ乞ゟ娘ゟ進ゟ食物ゟ不宜拵ゟ

おりふし拘攣仕候も有之候ニ付一切ニ仕候ハ
仕養母ニ申付候ニ成行擲を請り食物ニも養母ニ
充当を以勝手有之候ニ付候ハ自分も給へ共隣り合ニ候ハ
給不申ニ付養母ニ頼ひと師走ニ成候ハ別段ニ
こゆるニ一切村内ニも不出当
養母さよも持病ニ積気有之打当ニ発り難
候仕ニ付節ニ成候ニ付候ハ
外把住居ニ付村内ニ者ニ見舞ニ来候ニ
著ニ付少ニ而も日ニ
候ニ而ニ候ハ村中ニ不快ニ而食事
ホニ対ニ別ニ
今ニ而ニ難儀ニ
候例ニ通り葬ニ
唯ニ個馬ニ

を食ふ毎〻若くは養母と父母世界〻招待よ
お祝儀実母及び我おや
かも不孝と〻若者も決心
動と出たる実母と実母
申〻話更迄恩を謝
辛き左様〻後を中兵
即日隣家〻者たる
る者〻村内〻者た
小前相成村内取締
名村〻世話役
成る者相違〻出
以上

う者等〻能様よ取成
ども義教仕様
追〻村内〻者た
小前〻等義〻
村内取締
村役人一同
相違

午六月

野村権之亟

同十年午七月廿一日戸田家女厳子

野村権之亟代官所
丹後国鶴岡村孝行者之儀申上候書付

書面私午次女浪江儀、
一日米合宛一生之間、
午八月十六日

柳生主膳

野村権之亟代官所丹後国中郡鶴岡村百姓
作平次母ゟ孝行仕候段村役人ゟ申出候ニ付

国立公文書館
National Archives of Japan

組檜次郎書付兄松次郎へ相渡ス書付之事

午六月

野村檜次郎代官所
丹波国中郡野村
檜次郎
同人母
ゟん
午七十二歳

代官
野村檜次郎兄松次郎へ書付之事

柳生主膳正

右之者儀代々無高困窮者ニ而父久助弐十ヶ年
以前病死仕母并妹さよ二人養ニ而貧窮小前
之ものゝ小作之暇山ニ入薪を樵京極備前守殿
分同郡峯山町ニ而売払二里余之所を荷ひ持
出し賣代聊渡世之助ニ致し来候処拾ヶ年
以前妹さよ二十歳之砌大病相煩追々医師ニも
為見候得共療治難叶命中ニ付母之歎を帰
き色々申宥メ差遣夜不寝看病仕諸神佛ニ祈
誓を籠ヶ妹之命乞仕候得共次第ニ病氣重り來
朔ニ通り候付此者心中ニ悲しく母を諌メ村内
心易者方ニ連行離談ニ而元成し妹之菩提を弔祖
様之心を解きこもちら佛神ニ立願ホ仕年々金を
祈候得共難相叶終ニ者落命仕候段を是を人母ニ
仕へ何事ニ寄らず母之機嫌を伺候様ニ而少々母

くや中村を宿飯をこし高日くし飯米くし先落雁亜
の影を峯山田ゝ荷ひ出の節も重ゝ氣を暑ゝ
松茂葉事先留ゐをゝ候相止メ高日くし飯米ゝ
村内ゟ易方ゟ備請右神くし亜ゝの九底屋招日
須不役をかへ飯米ゟ高ゝ次お意くし飯を用達を
先返ゐをゝ不及旨お沢ゐを招た新要酒ゟ有くし節
必一礼を述相返ゝゐ四へ和る気くし毒ゟ毒の程く

飯ゟ右くし通くし貧窮者ゟ分亜中進茂疫臭も
亜くし例年ゟ冬ゟ今ゟ松くし亜ゟ組也体の茶方洗
ゐくゝ湯を漏ゝ松くし亜ゟを洗ひをゝくゝ亜ゟ洗ひをゝ
りのも新を洗ひ

小新を洗ひゐくゝ中ゟ新ゟ服り飯ゟ多
毛足洗ひ清めゐ事ゟ四信くし中智ゟ出花ゐ

亜疫松くゝ亜くゝ不酔肉松を有体代者ゟ着ゟ延おを

小村部〻中村殿吾一同盟〻同心ニ報恩人ノ連額ヲ
打合ノ為メ老年ニ及ヒ村部作配ヨリ倒ヲ勝ヲ打ノヨウ
打神ニ生ノ為ノ何年業ヲ為ス結若病ヲ助ケ合相
談ノ為ニ在来ノ手連計醵ヲ以自分ニ於テ報謝ノ
為ノ改ノ文ヲ相改有中〻ニ分於熊勝ヲ高ク
〻ニ於ノ文ヲ以テ日清改有ル様文ニ於ル
ヨ相談ヲ依テ神参ノ〻ノ〻ノ分村内相無〻

者ヲ以テ連ニ度〻ニ改者妻郷淡〻ニ於ヲ中ヘ
為ヲ他人ヲ引入ノ為ヨ改ヲ無〻気モ休無自分ヨ
モ不改ノ為ヲ以テ見送ノ為ヨ何ヲ世話ヨヲお
改有中〻ヲ不取合ヲ村中〻ヲ及中何
方ヲ為ノ云〻中年ヲ仕ニ於ヲ者ヲ分
連〻村内〻ヲ為ヲ代者ヲ為ヨ
実神ニ風ニ押絶ノ村内ヲ帰ニ衆連ヲ

村掛義之亜代村役人一同中之通村くとも右ニ
ツ相違無之候ニ付庄屋組中ニ而ハ一同ニ義ニ而相成候ニ
付庄屋ハ不相違候ニ付庄屋共ニ而預ケ
ル

午六月

野村権之帥

同十年午年八月廿六日古田徳中古殿ニ上ル

支配勤方
組中惣代
田辺安蔵
支配
下野國芳賀郡西水沼村巻ノ徳中ニ而書付
書面願之帥ニ而庄屋ハ不相違候ニ付
第亜代庄屋共ニ而預ケ
午十一月廿六日

柳生宗順

支配勤方
組中惣代
田辺安蔵
支配
下野國芳賀郡西水沼村百姓無之帥祖母ニ

春行仕候村役人共中おゐて互ニ相訴
究おゐ別紙入札ニ而引受候ニ付右為
相遣ス処ニ而ハ農民ニ重ニ税仕候事ニ候ハ
中上ニ而ハ不宜上

午八月

支配勘定
萩本武吉

柳生悦

支配勘定
萩本武吉
同格
田邑安兌
元吉
手塚周芳
支配調役
西水沢村
百姓
熊吉
当午十六歳

指当七半

拙者祖母儀夫先年病死ニ而常無之娘壱人有之
村内ニ而ものゝ世話仕縁組越後国ゟ参候日雇二次ニ
中者を聟ニ致夫ハ一両年未之娘懐妊仕候節
とも病死仕候上間もなく右娘儀も病死仕ニ付續聟二次
儀欠落仕候由ニ而祖母壱人ニ而貧窮等ニ而若年致し候由
然ル処儀成長ニ随ひ祖母をも甚大切ニ仕候儀一通りならす
ニ而何方ニ而も日雇抔ニ儀頼ミ候而雇被成候節ハ祖母ニ

慰ニ咄せ年日ニ而食事をも分ケ縮ニ致菓物等之外
何ニ寄らす他人ニ貰ひ又ハ求候而も持帰り危角を
身を忘れ祖母をたのしみ聊ニ而も心ニかりとも祖母ニ相勤
先ニ候儀無之組合之者共村内之者迄感及見聞仕居候
通右祖母儀も困窮難儀をも打忘安堵仕居候
然ル処儀年寄ニ而手弱成方ニ而も纔之屋敷ニ而手作所持
仕切ニ而小作等ニ而致し当年六拾九歳ニ罷成候祖母ニ

奉養仕候右村役人共ニ而
も百姓ニ対シ又相違之儀
無之候組合村役人共ニ
書ニ通中之通リ年貢村役
年以来農業ニ
お礼ニ参候節平日
右仕組無之候
諸ニ而も無之候ハヽ
下方ニ而
ハヽ外ニ而
年頃ニ
午六月

同十年九月十日松平伊豆守殿江

一 若年寄二御出代官所
陸奥國村々へ巡村者出張
書面中之通出張致候間
下役者之内壹人差添遣
候旨
九月廿日

一 若年寄二御出代官所奥州伊達郡村

長倉村百姓代参特ニ取扱仕候趣ニ
而御褒美之儀申上ル

奥州伊達郡長倉村
百姓
作左衛門

右作左衛門儀百拾九石余有持仕百姓ニ
世話ニ成候者ニ而悴作之七と申者ニ
家督ニ譲リ持高ニ悴ニ人ニ別渡シ一百姓

稼為仕候ニ付去ル文政十四卯年二月廿四日同郡岡村ニ而大
有之ニ打前風烈ニ而大火ニ相成町並百六拾軒
ニ所風上七八軒ニ而消留メ候ニ付焼失ニ
右作左衛門悴作之七ニ而者屋敷不残類焼仕候ニ
自分ニ而厳敷ニ不顧村内救ニ小前ニ合ニ
弐拾七両弐分別段御褒美ニ
極ニ而ニ

貢上納ニ差支候者ニ付
他ニ加ゟ小前ニ金拾両
借ニ賃銀ニ而持遣
素ニ而書ニ差遣
格別ニ御金ニ而
を受り寄特ニ
下ニ而村仕度有之ニ而

同国同郡百ヶ村
百姓
熊坂宇藤次

右宇藤次ニ百ニ拾二石余不持仕農業ニ而
元金ニ而ニ書面村長ニ村数ニ付
前ニ而ニ金弐拾ニ両ニ而
中ニ付ニ村小前ニ
七拾七軒ニ別渡ニ

松平陸奥守元伯殿ゟ御預ケ御救百石之内
村〻ゟ貸渡し一石利銀弐匁ニ而村内困窮之もの
ニも別段一度ニ百俵ニ而も弐百俵ニ而も
為出穀ニ而銀拾枚ニ而も壱年ニ壱人ニ付弐分
御先納ニ而永〻お預ケ置候ニ而も
弐ヶ年ニ而金百ニ拾両ニ而も村〻ゟ貸附右
利金ニ而村〻ゟ御救ニ差出候ニ付
この内一助ニお救ニ成者ゟ為差候ニ而も
極貧ニ者ニ而も両方仕法ニ而も元文籾俵ニ而も
お考ニ而為金ニ而も為出穀ニ而も御奇特ニ
ニ付賞典仕度候ニ付御中ニ
右ニ通中ニ而も評決仕候ニ而も
才判宜敷ニ而も連年貢不納仕候ニ而も

く者たる名分を明かに指別し給ふも
今く御先考く小弟く二人たる一同歎悲の
餘り自今く敬慕の不顧
村内小弟く者たる金弐拾七両弐分ヲ
寄特く兄弟ニ而ハ無之候得共右ハ
又枝父ニ而無拠字有候ニ付
代りく引續寄特く取計
先ハ右ニ而有増く之御中寄特く候
為御慶兼而ハ枝父ニ而重畳
何れ以上

千
九月

同十年第十月六日松平伊豆守殿江

服坂淡路守出張英仏両会商議村方相伺候書付

書面伺之通出張英仏両会商議村方取扱可申旨
文久二年閏八月十日
午十月十日

御老中
中川若狭守
石川左近将監
稲田十郎左衛門
小笠原二五郎

服坂淡路守出張英仏両会商議村方特者

山寨ヲ築ク之儀中立ノ件ニ付テハ先頃ノ觀ヲ以テ中立ヲ

右儀二郎儀平日親ラク事方宜觀ノ事實ヲ遂ケ

究ノ末會テモ行重通村困窮ノタメ

服坂渓路ヲ拓ク計

英佛國英国歌舎ヲ村百姓

去ル午年ノ時

春名儀二郎

年二十六歳

懶惰ヲ和ヘ同ラル助成ヲ以テ

遠ク中ヲ分同塞ヲ乳ヲ文事実ヲ遂ケ觀

村寨儀モ村方助成仕度ヲ以先年苗字帯刀

御免ヲ以テ文儀二郎儀若年ヲ以テ

別紙風俗ヲ以テ者ノ件ヲ称ス

帯刀　御免ヲ以テ別紙ヲ以テ

役人中立ヲ儀ヲ先祖ヲ以テ儀二郎親ノ

俵之内中小前百姓難儀ニ
等閑之外四年貢納方先支
上納之滞村役人共差
所ニ而安永元辰年為出
之分一代帯刀　御免
公儀ニ而者ニ帯ニ
右様ニ元年仕候
重而ニ出参ニ出願
ニ而も出来為致
八帝鑑ニ代官前
古田正義古田平
俵中ニ而阿部豊後
安年ニ出作ニ而困
奇特ニ俵ニ
重而ニ出参ニ出願
ニ而も出来為致
八帝鑑ニ代官前
古田正義古田平
俵中ニ而阿部豊後
安年ニ出作ニ而困

御年貢公納之儀ハ村百姓為ニ成候様ニと心掛ケ出
精て相勤候且親共ニも少も無之ニ付此代々より連々
貯置候金子百姓為助成差出当時迄も割渡為
為相續候ニ付且右其人親孝候者ニ而奇特之者ニ付
生涯之内二人扶持一代帯刀 御免苗字被下置
右名主有之渡世者ニ有之候得共右様引續奇
特之儀ニ付生涯之内褒美之儀八郎右衛門申渡候

間其身一代帯刀 御免被仰付候段申渡候同月
中相聞候為褒美銀拾枚被下置右見合
得と遂吟味候処当時親孝行之身分ニ有之候ニ付当
自分ニ及困窮之者ニ合力いたし遣置候段中
一統之救方ニも相成候由ニ付
とも親類之者共迄窮之困窮も貯置候得共身ニ貧
窮之困窮之者見繕ニ致し候得者甚夥敷志之

相守候ニ付
差引ニ而眼拾枚差
候ニ付此段申上候
以上

午十月

服坂浜路右ニ所
作ル英田郡倉安村
百姓吉右衛門伴
春名俊二郎
当午弐十六歳

右之者平日ニ而実体成者ニ而親ニ
いたし年若キ者ニ而
病気ニ付養生ニ
お尋ニ付村方ニ而
病気ニ付養生ニ
お尋ニ付村方ニ而

懸ケ合ヒ円ク治ル彼是助成ホイセラレ等ノ事共
有之ニ付テハ公庭御利ニモ不拘双方右志別
テ参特ニ執テ看村ヲ不及申通意ニ添
ク感歎ノ至ニ堪ス依テ為相礼ノ事実右遺学
一同密実ニ入念ノ為相礼ノ事実右遺学
ニ自ホ労ヲ尽シ親類右藩縁ヲ以人物頁安村方
助成ホ仕度旨先年ヨリ等力 御免ノ節ハ
苗字ヲ子孫迄名乗ノ儀ヲ 御免ノ事ニ候ノ辞
候ニ御座候年若ニ付右申上候通宜敷御取
計ヒ被下度ニ付ク御状添ヲ以此段申上候
尚又本人ニ於テモ右ノ者ニ付テハ宜敷御取
計ヒ被下度ニ付ク御状添ヲ以此段申上候
等力 御免ノ節ハ仕度ニ付テハ生前ニ
ぞもらり申候ニ候ニ御座候ニ付テハ生前ニ

午九月

肥後藩藩士
横田 亘

回十年年十二月廿日吉田俊中書殿下

野田文義市代官訴
武州小板橋宿孝行者之儀中上書

書面之次第御尋被成候処、孝行之儀ハ
小板橋宿之枚数ハ老若共ニ一百廿軒
之内ニ而一七三軒ニ当ル者ニ而候
未四月廿七日

柳生宗昭

野田文義市代官訴武州小板橋宿水呑百姓重次郎
養父母ニ孝行仕候ニ付御褒美被下候人左中ニ而
相応之儀文義

書付差出候間入御覧候而之後御返被下
相違之儀御座候ハヽ御届被申候様仕度
以上

午十二月

代官
野田文蔵

御生写

私江代官所
武州豊嶋郡下板橋宿
水吉百姓
重次郎
午二十九歳

右之者儀母親ニ孝行成者ニ而宿役人共申出候

相允ル者ヲ右重次郎ニ一緒ニ貰受ケ成長ノ後ハ道中小
揚渡世イタシ…母親ヲ悦バセ家内ニ入籍イタシ
ハ尚年七十ヲ越ス母ヲ引ト…ヲ以テ重次郎ヲ
元来ニッ谷喜子ト申ス実母死ス…ハ父母方ニ
里子ヨリ養育致シ…成人ヨリ相成ル…親元ニ
テ死亡中ハ父ノ…ヲ以テ養子ニ貰
請ル者ニ有之ニ同人儀宿内町並ニ…水菓子渡世
一…不…ヨリ…父十ニケ年ニ…
致シ…必ス…困窮仕中間宿内町裏ニ引移ノ…
ヨリ家作…重次郎…稼ニ…家内
扶助仕…貧窮ヨリ…母ヲ…母及老年ノ…
ヨリ大切ニ致シ…食事…ヨリ稼ヨリ…
自分ノ仕ヲ…ヨリ稼ヨリ…宅イタシ…自
分モ体ヲ…致ス…母親ニ…食事…致宅在

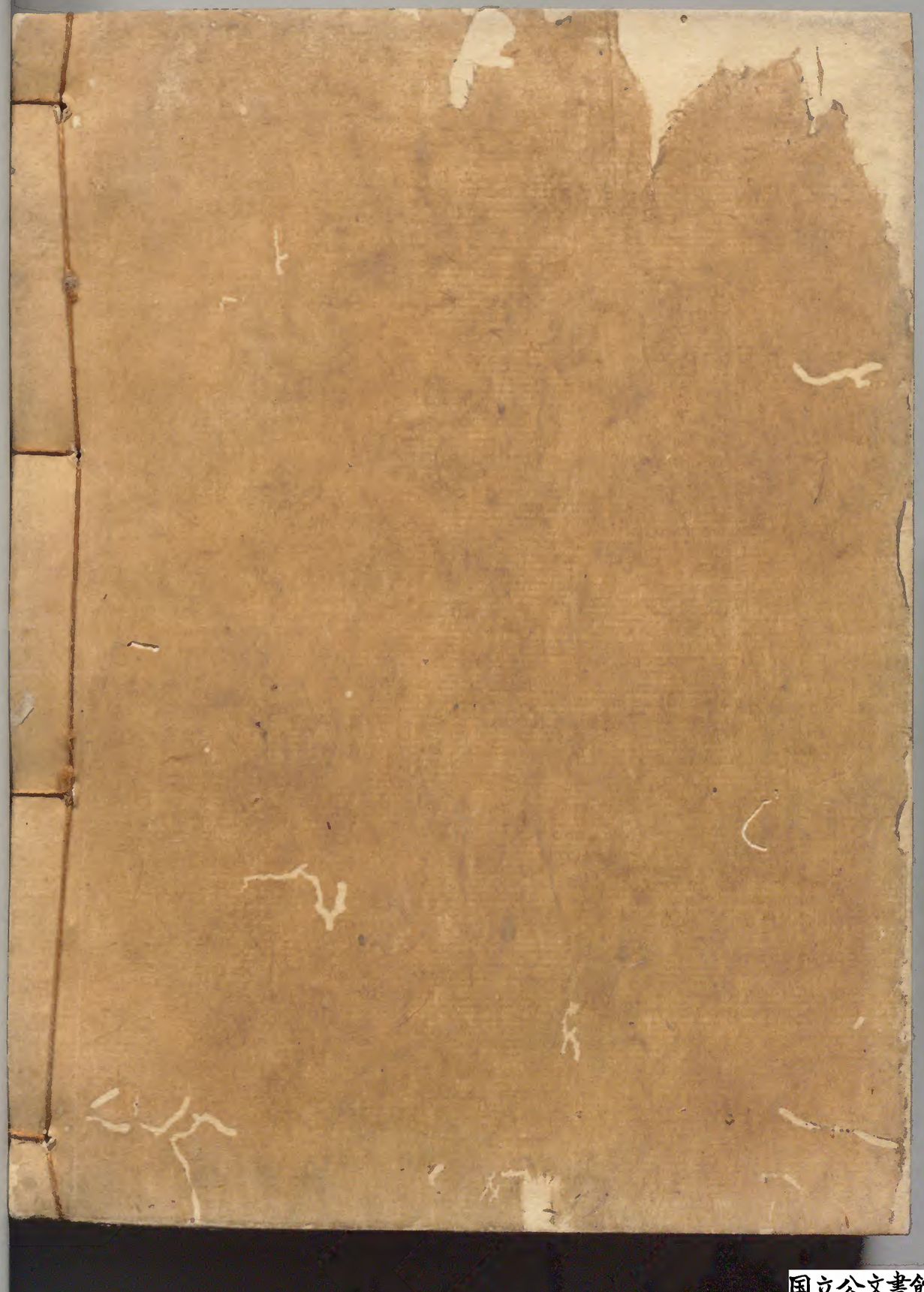
是ハ若き者親ニ背打無之様色附候之縁成様
之内ハ打ニ母ゟも好物ニ水菓子或ハ勝敷調ヘ去鹿ニ
差し八五郎も酒を好候ニ付是又附ニ少く宛調ヘ為
給候次郎儀右躰貧窮之も不拘ハ右取ニ取之候ニ其
身をもんでもん様こそのせ為し孝道父母ゟも可成丈
夜ハ取扱ニ為致朝夕何事ニ寄らず父母色附ニ以て
之り越候由同人儀若年之者分も若者共と出会も不

仕様を色精を出し宿内ニ而も偏ニ家内睦敷安
親ハ孝行致し鉄ハ孝道ニ次郎年来ニ成相成ニ
小村ニ道而之者ハ女房之世話致し候者有之と他
之なるも安親之介抱ニ不任加ニ少之若もの之孝
恩ハ難敷道孝之附助次郎ども加雅之物ニ若子京
貫ニ請致養育当年十歳ニ及ニ孝道次郎日々
様ニ及ひ右助次郎も安親ニ色深く祖助次郎ゟ精々申付

亜不自由ニ付キ扶養ヲ受ケル者ニ申立ル者
旨ヲ以テ父母ニ附ク者若クハ祖父母ニ対シ
通養父母ト称シ又ハ養子ヲ養父母ニ対シ
亦私ニ検束出用ヲ右宿ヨリ其ノ旨ヲ以テ父宿役
人ヲ附ケ相応ノ次席ヲ以テ宿継立ル
右重次席ニ一神輿ニ輿夫ヨリ相増ス後ハ渡世
役ニ付キ者ニ限リ養父母ト称シ又ハ養子ヲ以テ父母ト称シ
稼業者ニ付キ別ニ賃銭ヲ以テ相雇ヒ候儀ヲ
文中亜ノ如ク頼ノ上

午十一月

野田文蔵

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan